

2016年6月1日

みずほディーラーズアイ (2016年6月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場	2	韓国ウォン相場	9
ユーロ相場	4	台湾ドル相場	10
英ポンド相場	6	香港ドル相場	11
豪ドル相場	7	中国人民元相場	12
カナダドル相場	8	シンガポールドル相場	13
		タイバーツ相場	14
		マレーシアリング相場	15
		インドネシアルピア相場	16
		フィリピンペソ相場	17
		インドルピー相場	18

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 108.00 ~ 113.00

国際為替部 為替営業第二チーム 下山 泰典

■ 先月の為替相場

先月のドル/円相場は上昇した。月初2日、106円台前半でオープン。前月28日に日銀が金融政策の現状維持を決定したことや29日公表の米為替政策報告書で日本が監視リストに入ったことなどを背景に円買いの流れが継続し、翌3日には豪州準備銀行(RBA)による予想外の利下げもあり、この月の安値となる105.55円まで下落した。その後は、米4月ISM非製造業景気指数の良好な結果や6日の米4月雇用統計で非農業部門雇用者数の市場予想比弱い結果などを受けて一喜一憂する局面があるも、ハト派で知られるダドリー・NY連銀総裁が「依然として年内2回の利上げを妥当な水準」との認識を示したことで107円台前半で越週した。

翌週9日は107円台前半でオープン。カナダの森林火災を受けた原油価格上昇などを背景に日欧の株が強含みに推移したこと、米4月労働市場情勢指数が予想比良好な結果となったことなどがサポート材料となり、108円台半ばまで上昇。10日には麻生財務相が「米為替報告書で日本の為替政策は制約されない」、「一方的に偏った状況なら介入するのは当然」と明言したことなどで介入警戒感が強まり、109円台前半まで強含んだ。その後は108-109円台で前後し、108円台半ばで越週。

翌週16日は108円台後半でオープン。安倍首相が消費増税を延期する方針との報道に日経平均株価が上昇すると、ドル/円は109円台前半まで上昇。18日発表の本邦1〜3月期GDP(速報値)が市場予想を上回り、消費増税先送りや日銀追加緩和への期待が後退、一時108円台後半まで下落するが、結局109円台後半まで値を戻した。その後公表された4月FOMC議事要旨で「データ次第では6月利上げの可能性を排除しない」とのタカ派な内容が伝わると、ドル/円は110円台前半まで上昇。20日には110円台半ばまで上昇し、110円台前半で越週。

翌週23日は、本邦4月貿易黒字が市場予想を上回り円買いが優勢となる中、ドル/円は110円ちょうど近辺で東京時間オープン。25日の麻生財務相の消費増税先送り期待を後退させる発言に円高に振れる局面や、英国EU離脱を巡る世論調査でEU残留派が優勢と伝わるとポンド/円の上昇に連れてドル/円が上昇する局面もあったが、基本的には動意に乏しい展開。但し、27日はイエレンFRB議長が利上げについて「おそらく、数か月以内に適切となる」旨発言しており、ドル買い優勢に。本邦の消費増税先送り報道もあり翌週にかけてこの月の高値となる111.45円まで上昇し、月末は110.72円でクローズ。

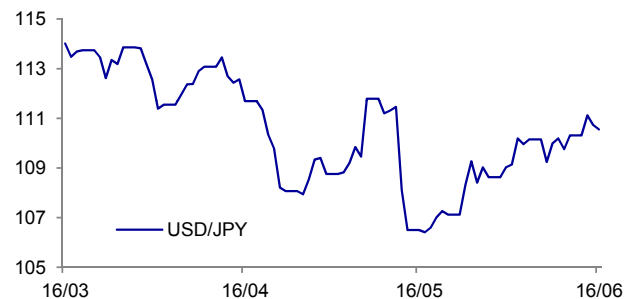
■ 今月の見通し

今月のドル/円相場は、23日に予定される英国のEU離脱を巡る国民投票までは上値重く、その後は反転上昇する展開を予想する。

今月は14・15日にFOMC(政策金利見通し公表やイエレン議長の会見あり)、15・16日に日銀金融政策決定会合があることに加え、23日には英国のEU離脱を巡る国民投票もあり、材料が多い。日米の金融政策も気になるところだが、まず警戒したいのは英国の国民投票だろう。足許の英国内の世論調査ではEU残留派が優勢のようだが、万が一EU離脱が支持されれば世界にリスク回避的なムードが拡がることは不可避だろう。時系列として、FOMCと日銀金融政策決定会合が投票の前にある。例えば、米国の利上げと英国のEU離脱が重なれば、新興国から莫大な資金が流出することが考えられるほか、米国が懸念しているドル高を招くことにも繋がりうるため、日米の金融政策としては一旦据え置きを余儀なくされるのではないかと。金融政策面では、先月27日にイエレン議長から「恐らく利上げは数か月以内」といったタカ派的な発言が聞かれたが、急速設定された6月6日の同議長の講演にも注目だ。6日は、3日の米5月雇用統計発表後であり、14・15日のFOMCにかかるブラックアウト期間直前でもある。利上げ時期の具体的な言及があったとしても英国国民投票などを勘案すれば、6月利上げではなく、BREXITなどを無事回避できれば7月に利上げというトーンを出してくるのではないかと。そうなれば、英国国民投票を経るまでは市場参加者としては動きづらく、むしろ投機筋の利益確定のドル売りや本邦輸出企業の円転フローなどに上値を押しさえられるだろう。その後、無事にBREXITを回避できれば、米国の利上げ観測を背景にドル買い優勢となると考えている。一方、日銀としても、GDP対比でみるFRB・ECB・日銀のバランスシートの規模は、日銀が突出して大きく、追加緩和策が限られるとも思われる中、万が一に備えてカードを温存したいところではないか。本邦の消費増税先送りの議論も、一旦は株高・円安とはなるだろうが、やはり日本国債の格下げリスクとは切り離せず、日本国債を多く保有する金融株主導での株売り・円高や、いわゆる「悪い円安」のきっかけとなることも懸念されるなど、インパクトを精査する必要がある。無論、今月のFOMCで利上げがある、日銀で追加緩和が決定される、英国のEU離脱が支持されるなどの事態となれば上記シナリオは大きく変わり得るが、今月のドル/円相場は基本的に英国の国民投票までは上値重く、その後は反転上昇する展開を予想する。

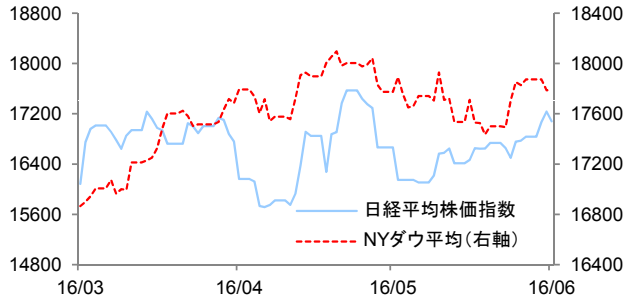
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/2	米ISM製造業	4月	51.4	50.8	51.8
5/4	米ISM非製造業	4月	54.8	55.7	54.5
5/2	米非農業部門雇用者数変化	4月	200K	160K	208K
5/4	米失業率	4月	4.9%	5.0%	5.0%
5/18	日1-3月期GDP(年率/前期比)	4月	0.3%	1.7%	-1.7%
5/18	米FOMC議事要旨	4月	-	-	-
5/23	日貿易収支	4月	540.0B	823.5B	754.2B
5/27	米イエレンFRB議長講演	-	-	-	-
5/27	米GDP2次速報(年率/前期比)	1Q	0.90%	0.80%	0.50%

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル・ブル (6名、108.00～116.00、中心109.00～115.00)

藤崎	108.00 ～ 115.00	6月会合での日銀追加緩和期待が次第に高まり、FOMCでの利上げ観測の高まりに利率的にドルの高値を試す展開を予想。旺盛な直接投資や対外証券投資、政治イベントを控えての本邦での財政政策を含む政策総動員の動きもサポート材料。
加藤	109.00 ～ 116.00	米国利上げ、本邦のネガティブ金利という金利環境においては本邦企業による円へのリパトリは減少すると思う。一方で本邦投資家による、日本国債の比率を落としヘッジ付き外債へ資金シフトする動きに拍車がかかっており、円買いの大きな流れは来ないと予想する。
矢野	109.00 ～ 115.00	米利上げに関しては6月(または7月)実施で相応に織り込まれていることから、強固なドル買い材料とはならず。ただ、日銀の追加金融緩和は未だ不透明要因であり、緩和期待は高いことからドル円相場のサポート材料となろう。実需の売りをこなしながら下値を切り上げる展開を予想。
高田	109.00 ～ 113.00	市場のリスクセンチメントは総じて改善傾向にありドル/円は底堅い展開を予想する。米利上げ期待が高まる状況下、FRB高官などの要人発言を手掛かりにドル/円は下支えされるであろう。
佐藤	109.00 ～ 114.00	米利上げ期待の高まりを背景にドル買い地合いになりそうだ。また、日本サイドでは消費増税の延期、補正予算案の編成、日銀による追加緩和といった参議院選挙に向けた政策期待が高まることもドル/円を支援しそうだ。
西谷	108.00 ～ 115.00	足許、株式市場や原油価格は堅調に推移しており、リスクセンチメントは好転。加えて、米国の利上げ期待が高まる中、ドル買いが選好されやすい地合が続くと考えている。英国の国民投票はリスクが伴うものの、最近の世論調査通りEU残留支持となれば、センチメントのさらなる改善が期待できる。

■ドル・ベア (5名、105.00～113.00、中心107.00～113.00)

山下	105.00 ～ 112.00	米利上げに対する市場目線を高めるためのFOMCメンバーによるタカ派コメントには実が伴っておらず、ましてやイベントリスクを嫌うFRBが英国のEU離脱問題決着前に利上げに踏み切るとは考えづらい。利上げ期待によるドル/円上昇には終止符が打たれよう。
西島	107.00 ～ 113.00	6日のイエレンFRB議長講演次第で6～7月の米追加利上げ観測が急速に拡がる可能性はあるが、BREXITの結末を見る前に積極的にドルロングへ傾ける向きは限られそう。本邦の消費増税先送りは目先での株高・円安を誘発も持続力に欠け、値ごろ感からの利益確定フローなどに下押しされる展開に注意したい。
尾身	106.00 ～ 113.00	ドル/円相場の上げはじり高に止まりそう。寧ろ、米追加利上げのどん挫、日経平均の足踏みなど、落とし穴が多数存在する中、現行レベルを維持できれば御の字ではなかろうか。原油相場が50ドル手前に足踏みしていることから反落によるリスクセンチメントの悪化にも注意したい。
下山	108.00 ～ 113.00	BREXITを巡る英国国民投票の結果待ちとなろう。6日のイエレン議長講演はタカ派的な内容となろうが、万が一英国がEU離脱となる場合を考えれば、結果が出るまでFRBは動けないと思われ、利上げは最速で7月か。今月は終盤まで投機筋の利益確定売りや本邦輸出企業の円転フローに上値を押さえられそうだ。
森谷	107.00 ～ 113.00	5月半ば以降、米国追加利上げ期待の高まりを受けてドル高が進行。しかし、結果次第で金融市場に混乱をもたらしかねない英国国民投票を前に利上げに踏み切るのには難しいのではないかと。上昇局面では戻り売り意欲も強いと考えられ、足許の上昇はあくまで一時的なものにとどまると予想する。

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.0800 ~ 1.1400
EUR/JPY 118.00 ~ 126.00

国際為替部 為替営業第二チーム 藤崎 一彦

■ 先月の為替相場

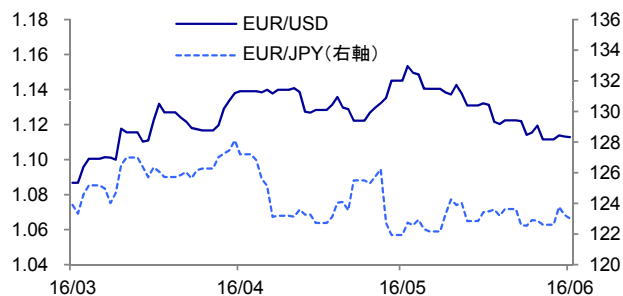
5月のユーロ相場は対ドルではユーロの上値が重く下落する展開、対円では米ドルの材料が相場の主役となる中でレンジ内の取引が続いた。月初のユーロドルは1.14台後半で取引を開始。米利上げに懐疑的な見方が広まり長期金利が低下する局面では一時約8か月ぶりの1.16台へ乗せる局面もあったものの、一部FRB高官が「6月は生きた会合、2回の利上げは勿論可能。」と発言すると1.15割れまで反落した。6日の米4月雇用統計に向けて弱い数字への警戒感が強まる中、1.15レベルを維持できず、1.14近辺での取引となった。米4月雇用統計は非農業者部門雇用者数(NFP)変化が+16万人に留まったものの、市場は既に弱い結果を織り込んでいた感があり、1.14台近辺での取引となった。ユーロ円は月初から安定したレンジ内の取引が続き、122円台を中心とするレンジ相場を継続。ユーロドルは、10日発表の独仏の3月鉱工業生産が事前の予想を下回り、またBREXITのリスクも強く意識される中、米大手銀の目先数週間のユーロ売り推奨もあり、ユーロの上値が重い展開となり、13日にはレンジを切り下げ1.13を挟んでの取引となった。18日に3月の米FOMC議事要旨が発表されると、6月或いは7月のFOMCでの米利上げの可能性が意識される中、米長期金利に上昇圧力がかかり、為替相場ではドル全面高となった。ユーロドルは1.1215まで下落する展開となり、ユーロ円はドル円上昇の影響を強く受け123円台後半まで反発した。19日に発表されたECB定例理事会議事要旨で「金融政策がもはや物価上昇率を回復させるのに寄与しないとの見方に対抗する」との姿勢が示されると、ECBによる追加緩和観測が浮上、ユーロドルは1.1180の安値を付けた。日本で開催されたG7はユーロの為替相場には特段の影響を与えなかったが、FRBの複数の理事から6~7月の利上げの可能性を示唆する発言が相次ぐ中、ドル買いの圧力が強まった。27日にイエレンFRB議長が講演で「利上げは今後数か月内が適切」と発言するとユーロドルは1.1111まで下落する展開となった。レンジ内の取引が続いていたユーロ円は、週明けの30日にドル円が111円台後半まで値を戻したこともあり、一時123円台を回復した。月末日にはユーロは対ドルではやや値を戻し1.11台前半レベル、対円では123円台後半レベルでまで値を戻してのクローズとなった。

■ 今月の見通し

6月のユーロ為替相場は対ドル、円共にユーロの下落を試す展開を予想。米利上げ観測が高まる中、為替市場全般にドル買い圧力が高まる。但し、6月は英国のEU離脱を巡る国民投票の一週間前の米利上げは困難、7月に25bpの利上げを決定するのがメインシナリオ。11月の米大統領選を考えると、利上げ回数もプラス一回が精一杯であろう。米景気の過熱感、インフレ懸念の何れもなく、正常化の為の利上げということであれば、そもそも利上げ効果を確認せずに連続利上げを行うことは選択肢にないと思われる。11月より前となれば、追加利上げは計二回が限界。米利上げを市場が完全に織り込むタイミングは意外と早まる可能性があり注意が必要。ユーロ圏については域内でばらつきはあるものの、概ね景気面では大きな問題がなく、金融政策についてはマイナス金利導入の明確な効果が見えない中、独などの反対もある中では一段の金融緩和の可能性は極めて低い。財政政策に関しても「好況時には政府部門の支出を控え、不況時の備えを作る」ことが共通の基本方針であり、現在は大規模な財政支出を考える状況にはないだろう。ユーロ圏の懸念材料は英国のEU離脱問題。仮に23日の国民投票で離脱が決定されれば、英国、EU双方の経済面での影響は極めて大きい。調査によれば賛否がほぼ均衡しており、直前のテロのリスク等を考慮すれば、目先は英ポンド、ユーロに下押し圧力がかかり易い。但し、懸念はワンオフのイベントリスクであり、一度離脱が否決されれば、直ぐに次の投票をとうことは有り得ない。従って、6月23日を境にユーロドル相場が折り返すリスクには注意が必要だろう。対ドルでの為替相場は、BREXITリスクが払拭されれば、1~2回の米追加利上げ期待でのドル買い相場は短命に終わるのではないだろうか。23日の英国国民投票まではユーロが下押し易く、結果が出た後は残留決定でユーロ買い、離脱で更なるユーロ売りとなる。但し、ユーロ圏の巨額の経常黒字がユーロを下支えするだろう。対円でもイベントリスクからユーロの上値は重くならうが、7月の本邦参議院選挙に向けては政策総動員の観測が高まる中、月後半からは円には下押し圧力がかかり易い。貿易収支に関しては大きな不均衡がなく、資本フローに振られ易く、投機筋の円ロングがアンワインドされる展開にも注意が必要。英国のEU残留が決定されれば、23日以降はユーロ急反発の可能性も。注目イベントは、2日のECB定例理事会、16日の消費者物価指数(CPI)、17日の経常収支、23日の英国国民投票。

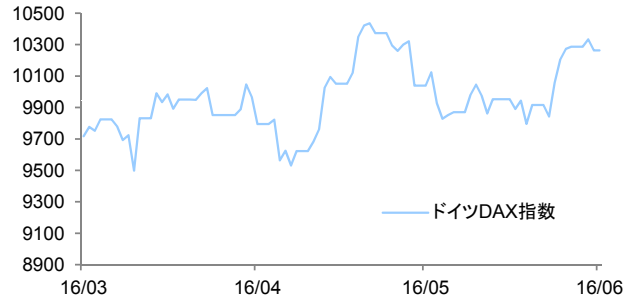
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/2	欧 製造業PMI	4月	51.5	51.7	51.6
5/4	欧 小売売上高(前年比)	3月	2.6%	2.1%	2.4%
5/4	欧 コンポジットPMI	4月	53.0	53.0	53.1
5/12	欧 鉱工業生産(前月比)	3月	0.0%	-0.8%	-0.8%
5/13	欧 GDP(前期比)	1-3月	0.6%	0.5%	0.6%
5/17	欧 貿易収支(季調済)	3月	EUR22B	EUR22B	EUR20B
5/18	欧 消費者物価指数(前年比)	4月	-0.2%	-0.2%	-0.2%
5/23	欧 経常収支(季調済)	3月	-	EUR32B	EUR11B
5/25	独 IFO現況指数	5月	113.3	114.2	113.2
5/30	欧 消費者信頼感指数	5月	▲ 7.0	▲ 7.0	▲ 7.0

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ・ブル (2名、1.1000～1.1500、中心1.1055～1.1450)

山下	1.1000 ～ 1.1500	今月は英国のEU離脱問題や米利上げ観測で動きづらい状況ながらも、ユーロ圏経済は安定推移を続けており、ECBの追加緩和は当面見送られるものと考えられる。膨大な経常黒字を背景にユーロはじり高の相場展開を予想する。
尾身	1.1100 ～ 1.1400	ユーロは米利上げ期待の高まりにより下落したもののレンジ内に止まっている。米国の利上げ姿勢が長続きしない以上、例え今月のFOMCにて利上げが行われたとしても、ドル買いの影響によるユーロ売りは限定的となるだろう。

■ ユーロ・ベア (3名、1.0600～1.1400、中心1.0800～1.1300)

藤崎	1.0800 ～ 1.1400	英国のEU離脱懸念、米利上げ観測の高まりがユーロ売り材料。23日の投票結果が確定するまではユーロの上値が重くなろう。僅差の結果が予想されるが、英国が離脱が否決されれば投機筋のポジション調整やヘッジポジションの解消にともなうユーロ急反発に注意が必要。
加藤	1.0600 ～ 1.1300	米国利上げが明らかになった今、ユーロの売り圧力が継続すると見る。ただし、月後半になると英国によるEU離脱問題が注目され、ポジション調整からユーロの買い戻しが見られるかもしれない。
矢野	1.0800 ～ 1.1300	足許のユーロドルの調整はドル安の巻き戻しが主因。米追加利上げが現実味を帯びる中、ユーロは総じて上値の重い地合いとなろう。最大のリスクは英国のEU離脱回避。ポンドと共にヘッジの巻き戻しからショートカバーが加速し、急反発となるリスクは想定しておきたい。
高田	1.0800 ～ 1.1300	FRBの利上げ観測を背景としたドル買いからユーロは下値を探る展開を予想する。また足許BREXITを意識したユーロ売りは沈静化しつつあるも、投票日までには決定打に欠けるため積極的にユーロのポジションは取り難いであろう。
佐藤	1.0900 ～ 1.1300	米利上げ期待の高まりを背景にユーロは軟調地合いを継続しそうだ。ただ、半期末を控えた欧州企業によるレバトリなども期待できることから、ユーロの下値も限定的か。
西島	1.0700 ～ 1.1300	BREXITの結末を見るまで欧州通貨全般で上値の重い相場展開が想定される。英国がEU残留となれば一時的にはポンド買いに押されユーロは売り圧力が拡がると予想。ECBは金融政策の現状維持を決定するも、将来的な追加緩和が視野に入り積極的なユーロ買いは控えられるだろう。
下山	1.0800 ～ 1.1300	ユーロ自体に材料は少なく、ドル主導の値動きとなろう。BREXITを巡る英国の国民投票までは投機筋などは動きづらい中、どちらかと言えば米利上げ観測を基にややドル買い優勢となるか。また、国民投票においてEU残留となればユーロ/ポンドでのユーロ売り・ポンド買いも入るだろう。
西谷	1.0700 ～ 1.1300	リスクセンチメントの改善とともに、ユーロの緩やかな下落が継続。米利上げ期待が高まる中、全般的なドル買いの流れを受けてユーロ安が進むと考えている。加えて、BREXITに関連して楽観的な見方が拡がる中、ポンド買い戻しの動きが顕著であり、ユーロ/ポンドの下落がユーロ安を主導する可能性もある。
森谷	1.0700 ～ 1.1300	ECBに対する追加緩和期待は高まっていないものの、米早期利上げ期待及び英国のEU離脱懸念がユーロ相場の上値を押さえる材料となるだろう。英国の国民投票の結果によっては、大きく反発する可能性には警戒も必要だが、基本的には上値の重い推移を予想。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.4300 ~ 1.5200
GBP/JPY 158.00 ~ 166.00

欧州資金部 本多 秀俊

■ 先月の為替相場

5月のポンド相場は、比較的狭い値幅を横ばい。月初、ポンドは対ドルで4か月ぶりの高値となる1.4695まで上伸したが(3日)、そこから急反落。その後月前半は軟調推移を支配的としたが(特に対ドルで)、月央から月末にかけては円やユーロなど主要通貨に対して全面的な堅調推移を基調とした。月前半のポンド軟調のきっかけは、連休明けの3日発表された英4月製造業PMIの低迷だった。同指数は49.2と、景気拡大/後退の分岐点となる50を39か月ぶりに下回った。その後発表された同建設業PMI(4日)、サービス業PMI(5日)も市場予想を下回り、「EU残留の是非を問う英国民投票(6月23日)前の不透明感を警戒した設備投資の手控えなどで、既に英景気は後退を始めている」との思惑が広がった。月央に発表された英主要経済指標の内容は交錯しており、ポンドの反応も限定的に見えたが、月を振り返ってみると、18日に発表された英1〜3月平均賃金(含賞与)の小幅上振れ(+前月分の上方修正)や19日に発表された英4月小売売上高の大幅上振れなどは、ポンド反発の転機を与えたようにも見える。17日に発表された英4月消費者物価指数(CPI)の下振れは、とりわけコアCPIが3月の前年比+1.5%から同+1.2%にまで失速したのは意外感も強かったが、これはむしろ3月の物価急騰の方が例外的で、敢えて「物価の基調は弱くない」と読むこともできただろう。前後して金融市場の関心は、米連銀追加利上げの可能性に集まってきた。きっかけは18日に発表された米連銀4月公開市場委員会の議事録で、6月利上げに積極的な姿勢が読み取れたことだった。その後も、米連銀高官から6/7月の利上げの可能性を仄めかす発言が相次ぎ、ほとんど消え掛けていた夏場の利上げの可能性は相応に高まってきた。米追加利上げ観測の再燃は通貨市場においてドル全面高をもたらしたが、対ドルでのポンド下落が比較的小幅で、短期に上昇に転じた背景には、ほぼ入れ替わりに英のEU離脱の可能性が低下したとの安心感の広がりがあった。過去の英世論調査などの不正確さ(14年9月のスコットランド独立投票、15年5月の総選挙など)を鑑みれば、世論調査などに過度の信頼を置くのが危険なのは確かだが、各種世論調査でも、賭け屋の賭け率でも、押し並べて残留派の支持が高まり、離脱派の支持が低下したのは、確かに、安心感を高める材料と判断できただろう。

■ 今月の見通し

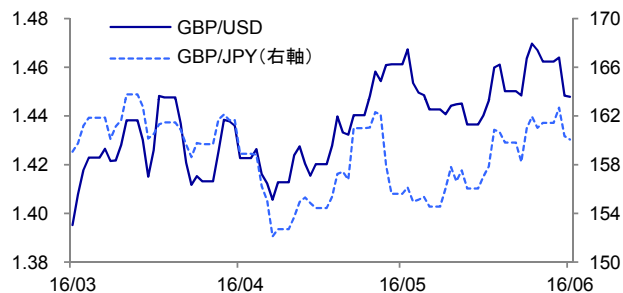
6月のポンド相場は、堅調を予想。英のEU残留に向けた安心感の広がりは、もう一段のポンド上昇余地をもたらすはずだが、国民投票で残留が確認されれば、もう一段のポンド上昇は期待できる。投票は23日の現地時間22時(GMT21時)に締め切れ、出口調査の結果は直後に発表されるものと見込まれる。出口調査が明確な結果をもたらさなかった場合、現地時間24日早朝と見込まれる正式な結果発表を待つことになる。ただし、仮に、キャメロン英首相が6月23日の国民投票実施を発表した今年2月21日をポンドの「国民投票相場」の起点とするのであれば、既に対ドル(1.4405)、対ユーロ(0.7725)共にその前日(週末を挟んで19日)の引け値水準を上抜けており、対円でも当該水準は162.14と、上昇余地は限られる。或いはオズボーン英財務相が「英がEUに残留するための5つの条件」を発表した昨年11月3日や、キャメロン首相がトウスク欧州理事会議長(EU大統領)に対して送ったEU改革の要求項目を公表した11月10日を「国民投票相場」が本格化した起点と認識することもできよう。その場合、対ドルで1.50〜1.55、対円で186円、対ユーロで0.710〜0.715といった水準をポンド上値の目処として意識することになる。勿論、EU離脱に向けた不安から(結果的に)不必要にポンドが売られた「反動」で、今後、こういった水準を超えてポンドが上伸する可能性も考えられる。しかし、夏場に向けてポンドが上昇基調を維持するためには、EU残留の安心感に加え、英中銀利上げ観測の高まりが不可欠ではないか。英中銀は5月インフレ報告書で、英経済の抱える最大の不透明感を「EU脱退リスク」としていた。23日以降その不透明感がごっそり抜け落ちた状況を想定しよう。並行して原油価格は順調に50ドル/バレル近辺まで回復してきており、早ければ(8月の物価指標が発表される)9月にもCPI総合指数のコア指数への接近が確認できるはず。仮定の上に仮定を重ねる議論になるが、これで賃金の底打ちが確認されれば、過去、拙速な「利上げ予告」を繰り返してきた英中銀カーニー総裁がタカ派の地金を現す可能性も十分に考えられよう。勿論、英国国民がEU離脱を選択した場合、状況は180度異なってくる。ポンドは少なくとも直近安値(対ドルで1.3836、対円で151.66)を割り込み、急落するであろう。また、米連銀の利上げ(予告)も対ドルでのポンドの値動きに大きく影響するはず。英経済指標などでは、8日の4月鉱工業/製造業生産、14日の5月CPI、15日の2〜4月平均賃金、16日の5月小売売上高などに注目。16日の英中銀金融政策委員会は、国民投票を目前に無風に終わろう。

■ 今月のつづき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』
当地の人たちの語学力...? イギリス人の語学力ってことですね? 特段、特筆すべきことも思いつきません。敢えて言うなら、世界に冠たる英語を母国語とするこの国の人たちの外国語学習意欲は、決して高くはないと思います。英語さえ喋れば、大概なんとかなりますから。勿論、あくまでも一般論の話で、イギリス人でも、英語以外に何か国語も話せる語学に長けた人はいくらでもいると思います。ただ、そういう人たちは往々にして、幼い頃から、親の仕事の関係で外国に住んでいる間に、彼の地の言語を習得したというケースが多い印象です。そういう人は意外に多くて、そんなところに、世界に版図を広げ、七つの海を制した大英帝国の面影を感じます。外国語と言うのはちょっと違うかもしれませんが、元々イギリス(連合王国)は、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4か国からなる国で、それぞれの国には一応、それぞれの言葉があるようです。この機にちょっと読みかじってみました。いわゆる英語(イングリッシュ)はあくまでもイングランドの言葉で、そもそも源流は5世紀以降、北ドイツ・デンマークあたりから流入した人々(いわゆるアングロサクソン人)が持ち込んだドイツ語系言語らしいです。スコットランドの言葉(スコティッシュ)はローマ人によって北に追いやられたケルト人の言葉(ゲール語)と、ローマ人撤退の間隙を衝いてブリテン島にやってきたアングロサクソン人の言葉(後のイングリッシュ)が混ざってできたとのことですが、イングリッシュの方言みたいなのと言ったらスコットランド人は怒るでしょう。ウェールズ語は西に追いやられたケルト人の言葉(ゲール語)がより純粋に残された形で発展したそうで、今でも、ウェールズに行く道標などはイングリッシュと並んでウェリッシュ(ウェールズ語)でも併記されていますが、完全に別物で全く読めません。

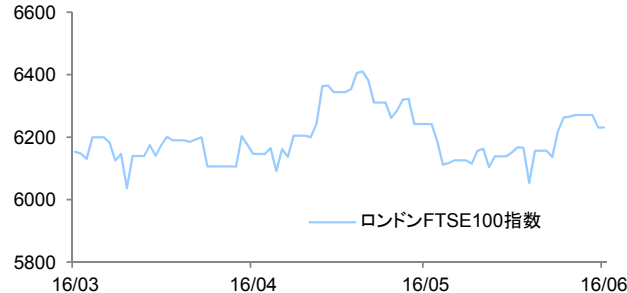
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/10	貿易収支(百万ポンド)	3月	-4200	-3830	-4301
5/11	鉱工業生産(前年比)	3月	-0.4%	-0.2%	0.1%
5/11	製造業生産(前年比)	3月	-1.9%	-1.9%	-1.6%
5/12	英中銀基準金利		0.50%	0.50%	0.50%
5/17	消費者物価指数(前年比)	4月	0.5%	0.3%	0.5%
5/18	ILO失業率	1-3月	5.1%	5.1%	5.1%
5/18	週平均賃金上昇率(前年比)	1-3月	1.7%	2.0%	1.9%
5/19	小売売上高(含自動車/前年比)	4月	2.5%	4.3%	3.0%

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.6820 ~ 0.7400
AUD/JPY 76.00 ~ 81.00

シドニー支店 山口 美紀

■ 先月の為替相場

5月の豪ドルは、0.76前半から0.71後半へ▲6%大幅下落した。

2日、豪ドルは0.76近辺でスタート。米4月ISM製造業景況指数の下ぶれや予想を上回った豪3月住宅建設許可件数から、豪ドルは5月高値となる0.7720まで上昇。しかし、3日の豪準備銀行(RBA)理事会でややサプライズとなる▲25bpの利下げが行われ、政策金利は史上最低を更新する1.75%となり、豪ドルは0.75後半に急落。海外市場に入り、商品価格の下落を背景に、豪ドルは0.74後半まで値を下げた。6日、RBA四半期金融政策報告書において、インフレ見通しが大幅に引き下げられ、豪ドルは0.73後半に下落。海外市場では、市場予想を下回る米4月雇用統計や鉄鉱石の▲3%超の下落を受けて、豪ドルは0.73前半に下落。その後、世界主要国の経済指標の発表に欠け、豪ドルは0.73台での揉み合い推移が続いた。13日、米4月小売売上高が市場予想を上回り、米国の早期利上げ観測が高まり、米ドル買い進行。豪ドルは0.72半ばに下落した。

17日、今月3日開催分のRBA議事録にて「金利据え置きも検討した」とのハト派(金融緩和積極派)ではない内容が示され、豪ドルは0.73半ばに急伸。しかし、翌日、4月開催の米FOMC議事録にて「経済指標が4～6月期における成長加速を示し、インフレ率と雇用で前進が見られれば、6月に利上げする公算が大きい」との認識が示され、米国の早期利上げ観測が高まり米ドル買いが進み、豪ドルは再び0.72半ばに反落。19日、タドリーNY連銀総裁の「米経済は6月か7月の利上げを正当化するほど十分に力強い可能性がある」との発言が伝わり、豪ドルは一時0.72割れに下落。その後、豪ドルは0.72を挟んで揉み合い推移したもの、25日、豪ドルは一時月安値となる0.7145まで値を下げた。27日、イエレンFRB議長の「経済成長が想定どおり継続し雇用創出が続けば、FRBは今後数か月に利上げすべき」との発言も伝わり、豪ドルは0.71後半に下落。しかし、31日、豪住宅建設許可件数が予想を上回り、豪ドルは再び0.72半ばに反発し、越月した。

■ 今月の見通し

「6月の豪ドルは上値の重い展開を予想、14～15日のFOMCでの利上げ有無に注目。」

先月、RBAは1年ぶりに利下げを行った。今回の利下げにより、政策金利は史上最低となる1.75%となった。4月発表された豪1～3月期消費者物価指数(CPI)は非常に弱い結果となったことが、利下げの背景と推測される。先月発表されたRBA四半期金融政策報告書ではインフレ見通しの大幅な下方修正が行われ、追加利下げ観測が爆る。しかし、RBAは今回の利下げ効果及び更なるインフレに関する情報を得てから、追加の金融緩和に動くと考え、次回利下げは7月末に発表される豪4～6月期CPI以降、早くとも8月のRBA理事会となるだろう。

他方、米国では今月14～15日でFOMCが開かれる。3月のFOMCメンバーによる政策金利見通しでは2016年の利上げ回数は2回(1回あたり25bpで計算)と示されている。2016年のFOMCは6・7・9・11・12月であり、利上げを行う時期は6～9月と12月のそれぞれ1回ずつと考える。2015年8月の中国株ショック以降、FOMC声明文では「世界経済情勢」に関する文言が急増しており、FOMCメンバーは米国経済状況に加えて、世界景気動向にも注意を払っているように窺える。世界的に注目されている6月23日のイギリスの欧州連合離脱是非を問う国民投票を翌週に控えて、6月FOMCでは利上げは見送られ、7月または9月での利上げができるようFOMC声明文やイエレンFRB議長の会見において利上げに関するメッセージが出てくるのではないかと。

以上のことから、追加利下げが予想されている豪州、一方、利上げを展望している米国と、金融政策の方向性の違いより、豪ドル売り/米ドル買いが継続すると見込むことから、豪ドルは軟調推移が続くと予想する。また、米国の短期金利先物市場では米国の6月の利上げは30%しか織り込まれておらず、米国が6月に利上げを行った場合、サプライズとなり、豪ドルは年初来安値0.6827近辺まで下落する可能性があるだろう。

6月の豪州注目指標は、1～3月期GDP(1日)、小売売上高、貿易収支(2日)、RBA理事会(7日)、雇用統計(16日)、RBA議事録(21日)。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』

このタイトルで一番ドキッとしたのは自分自身で、赴任以来英語力向上に向け取り組んでいる次第です。豪州当地のメイン言語はもちろん英語、非英語を日常会話として使用する人口は18.2%(2011年8月時点)。中国語:3%、インド語:1.8%、イタリア語:1.4%、日本語:0.2%となっています。

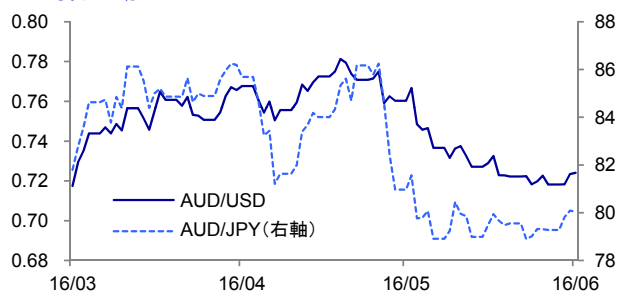
職場はオーストラリア人(オージー)ばかりなので、ディーリングルームでは常にアメリカ英語でもイギリス英語でもなく、オージー英語が飛び交っています。それでは早速、オーストラリア英語力テストに移ります。下記10個のオーストラリアスラング、いくつわかりますか?

- ①She'll be right : No problem, don't worry
- ②Tell him he's dreaming: No way, not likely
- ③Your shout : Your turn to buy drink
- ④Good oil : Good information
- ⑤Grass cutter : Someone who goes after your girl
- ⑥Mad as a cut snake : Very angry, crazy
- ⑦Flat out like a lizard drinking : Extremely busy, at top speed
- ⑧Dry as a camel's hump : Thirsty, buy me a drink
- ⑨Up and down like a dunny seat : Changing your opinion
- ⑩Have a captain cook : Have a look

オージー上司に上記10個を教えてもらいましたが、オージー同僚は数個しか分からず、世代等により使う言葉が異なっているように見えます。ちなみに、私は1つも分かりませんでした。。まあ、そんな時も聞き直して、She'll be right !

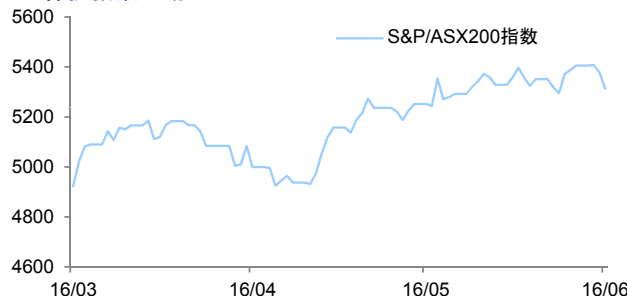
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/3	RBAキャッシュレート		2%	1.75%	2%
5/5	貿易収支	3月	▲2900M	▲2163M	▲3044M
5/5	小売売上高[前月比]	3月	0.3%	0.4%	0.1%
5/11	住宅ローン[前月比]	3月	▲1.5%	▲0.9%	0.9%
5/17	RBA議事録				
5/19	雇用者数	4月	17.0千人	26.1千人	▲0.7千人
5/19	失業率	4月	5.9%	5.7%	5.8%
5/26	民間設備投資	1-3月	▲3.5%	▲5.2%	1.8%
5/31	住宅建設許可件数	4月	▲3.0%	3.0%	2.9%

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.2461 ~ 1.3188
CAD/JPY 82.25 ~ 85.46

米州資金部 高橋 勝彦

■ 先月の為替相場

月初、カナダの大規模森林火災で、サンドオイルの生産見通しが引き下げられる中、3月カナダ貿易収支が発表され、34.1億カナダドルの赤字と、赤字幅は2月の4.7億カナダドルから拡大し、1996年以降で最大の記録となったことを受けて、ドル/カナダドルは1.28台へ上昇した。その後、4月カナダ雇用統計で、失業率は7.1%と上昇予想に反し前月と同水準に留まったため、一旦カナダドル買いが先行したが、一方で、雇用者数増減は▲0.21万人と予想外に前月からマイナスに転じたことを受けて、カナダドル売りが加速、ドル/カナダドルは1.2840付近へ下落後、1.2952へ急反発する乱高下した動きとなった。同日に発表された米4月雇用統計は予想を下回る内容だったものの反応は一時的で、為替市場はこれまでの調整の動きも見られ、ドル買い戻しが優勢となり、ドル/カナダドルは心理的節目の1.30台を回復し一時1.3015まで上昇した。

月中、原油高をきっかけに市場にリスク選好ムードが強まる中、為替市場は資源国通貨などが買い戻され、ドル高の動きは一服し、ドル/カナダドルは1.2772までカナダドル高が進んだ。しかし、FOMC議事要旨で、6月の利上げ観測が強まったことを受けて、ドル買いの圧力が加わり、ドル/カナダドルは4月8日以来の一時1.3154まで上昇した。

月末、25日に発表されたカナダ銀行翌日物貸出金利は一部予想と反し0.50%の据え置きとなったことからカナダドルショートカバーが入りドルカナダは下落。WTI先物が昨年11月以来の1バレル50ドルを回復したことも後押し要因となり一時1.2911まで下落した。

■ 今月の見通し

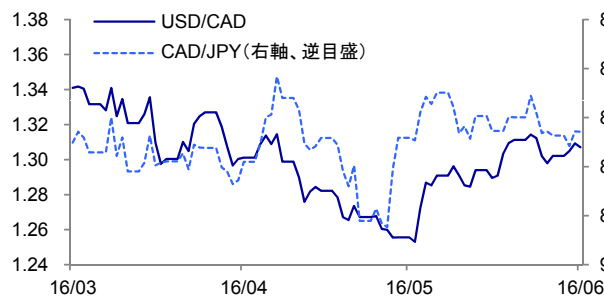
先月に公表されたFOMC議事要旨は、FRBが6月か7月にも利上げを実施する可能性を示唆し、米利上げ織込み不足の市場にとってはサプライズとなり、為替市場ではドル高となった。原油の堅調が続く中、原油相場との連動性が注目されるカナダドルだが、FOMC議事要旨を巡り米ドル買いの圧力が加わっており、これまで蓄積されたカナダドル買いのポジション調整が促されている側面も見られる。6月に入ると6月15日の米FOMCに向けて、米利上げ実施がより強く意識され、ドル高に動く予想する。ドル/カナダドルは1.4690の高値から1.2461の下落に対する38.2%戻しの1.3312が直近の狙い目となり、それを上抜けすると半値戻しとなる1.3575レベルが上値ターゲットとなるだろう。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』
カナダは多文化(マルティカルチャー)を重視しているだけあって、バスに乗っていると色々な国の言語が聞こえてきます。
基本、カナダでは2ヶ国語を話すのは当たり前で3ヶ国語でようやく驚かれます。公用語は英語とフランス語ですが、正直、トロント・バンクーバーは中国人が多く、いっそ英語と中国語を公用語にしてしまったほうが理にかなっているような気がします。実際に、チャイナタウンを歩いていると、おばあちゃんからよく中国語で道を聞かれますし。肝心のフランス語スピーカーはケベック州に行かない限りは基本的に見ません。ちなみにケベックのフランス語は訛りが強く、高校時代に会ったフランス人のホストブラザー曰く、「こんなのフランス語じゃない、別の何かだ」とのこと。英語でもカナダ国内で州ごとに訛りがあります。僕は聞いたことはありませんが、ニューファンドランド州の訛りがそうとうきつらしいです。
ちなみに、あまり訛りの強くないカナダ人でも、「OU」の発音は独特です。たとえば、Houseは本来「ハウス」ですが、カナダ人はどちらかというと「ハオス」だったり、Aboutは「アバウト」というよりは「アバオト」という感じです。スベル的には「OO」のほうに近いと思います。最初は気づかなかったのですが、友達のいとこがオーストラリアから来た際に、この発音をからかっていたのを見て知りました。この発音仕様は言語学上、Canadian Raisingと呼ばれるそうです。(カナダ支店 森 泰然)

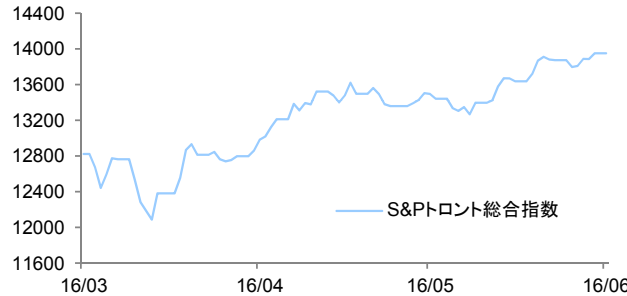
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/4	国際商品貿易	3月	-1.40B	-3.41B	-2.47B
5/6	雇用ネット変化率	4月	10.0K	40.6K	-2.3K
5/6	失業率	4月	0.5%	0.5%	0.5%
5/20	小売売上高(前月比)	3月	-0.6%	-1.0%	0.6%
5/20	小売売上高(除自動車/前月比)	3月	-0.4%	-0.3%	0.3%
5/20	消費者物価指数(前年比)	4月	1.7%	1.7%	1.3%
5/25	カナダ銀行翌日物貸出金利	5/25	0.5%	0.5%	0.5%
5/31	GDP(前月比)	3月	-0.1%	-0.2%	-0.1%
5/31	GDP(前年比)	3月	1.4%	1.1%	1.5%
5/31	GDP(四半期/年換算)	1Q	2.8%	2.4%	0.8%

韓国ウォン相場

予想レンジ:

USD/KRW 1170 ~ 1230
KRW/JPY 8.79 ~ 9.52
JPY/KRW 10.50 ~ 11.50

(注) 100韓国ウォンあたりの対円レート

ソウル資金室 吉田 史門

■ 先月の為替相場

5月のドル/ウォン相場は、米利上げ観測を背景に上昇した。

月初のドル/ウォン相場は上昇。月初2日のドル/ウォン相場は、前月末対比+2.7ウォン安の1142.0ウォンで取引を開始。5日からの連休を控え、実需関連のウォン買いが優勢となり、上値の重い展開となった。翌3日には月安値の1133.1ウォンをつけるも、豪州準備銀行(RBA)が市場予想に反して利下げを決定し、豪ドルが対ドルで▲2%程度下落したことを受けて、ウォンも連れ安となった。4日はグローバルなドル高の流れを受けてショートカバーが優勢となり、1150ウォン台半ばで連休を迎えた。連休中もショートカバーの流れを継いでオフショア(NDF)市場でドル/ウォンが上昇。注目されていた米4月雇用統計はやや低調な結果となったものの、ドル買いの流れが続いた。

月央のドル/ウォン相場も上昇。注目されていた韓国銀行(BOK)の金融通貨委員会(13日)では、市場予想通り政策金利を1.5%で据え置くことが決定された。一部市場参加者間では利下げ期待が高まっていたことから、ドル/ウォンは一時上げ幅を縮小したものの、李BOK総裁会見後も追加緩和期待が継続したことから、再度上げ幅を拡大。李総裁の記者会見では、今回の会合は全会一致の決定であったことが述べられたが、これまでに、現状の金融政策が緩和的だと判断した際にも利下げたことがあるほか、必要に応じてユ・イルホ副首相と会合を行う旨が説明された。その後、原油価格が堅調に推移する中で、18日に発表されたFOMC議事要旨を受けて米利上げ観測が高まり、19日にドル/ウォンは約2か月ぶりに1190ウォン台に乗せた。

月末のドル/ウォン相場は為替介入への警戒感と実需関連のウォン買いを受けて上値の重い相場展開となった。韓国開発研究院(KDI)が韓国の成長見通しを下げたことをきっかけに追加金融緩和観測が高まったものの、その後は実需関連のウォン買いを受けてドル/ウォンは上値の重く推移した。31日の引け間際に月高値の1193.3ウォンをつけた後、結局、ドル/ウォン相場は、前月末対比+52.4ウォン安の1191.7ウォンでクローズ。

■ 今月の見通し

6月のドル/ウォン相場は堅調な相場展開を予想する。1200ウォンを試す場面もあるだろう。

市場のメインテーマは、米利上げ観測だろう。利上げ観測が高まる中、特に各種米経済指標・要人発言に注意したい。ポイントは米経済が利上げを吸収するだけの体力があるかどうか。一つの目安となるのは経済指標・要人発言に対する各マーケット(特に米株)の反応だろう。足許、米株は堅調に推移している。原油価格が上昇傾向にあることもその一因だが、強い米経済指標を受けて米経済の力強さが評価されているとの見方も出来る。もし強い経済指標が発表されてから、米株が大きく下落するようだと、FOMCメンバーは利上げの景気下押し効果を懸念するかもしれない。逆に株価が大きく上昇するようだと、追加利上げの後押しをするかもしれない。このことから、経済指標のヘッドラインだけではなく、その内容・傾向及び各マーケットの反応が6月利上げの決定を左右すると考えている。思惑が錯綜しやすいことから、ボラタイルな相場展開となる可能性がある。

また、BOKによる追加金融緩和の可能性に注意したい。足許、利下げ期待はさほど高くないものの、少数派与党でレームダック化したパク・クネ政権が推し進めている不良企業構造調整のスピードが高まれば、景気下押し圧力の緩和を目的とした利下げ観測が高まると予想される。

引き続き、北朝鮮との地政学的リスクにも注意しなければならない。足許、緊張感は幾分か和らいでおり、基本的に過剰なシナリオは想定していないものの、事態の沈静化に時間がかかっていることから、本件の動向は無視できないだろう。

これら以外にも、ECB理事会(6/2)、BOJ金融政策決定会合(6/16)、ブレグジット(英国が欧州連合から離脱)の是非を問う国民投票(6/23)などのビッグイベントが控えており、注意が必要である。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』

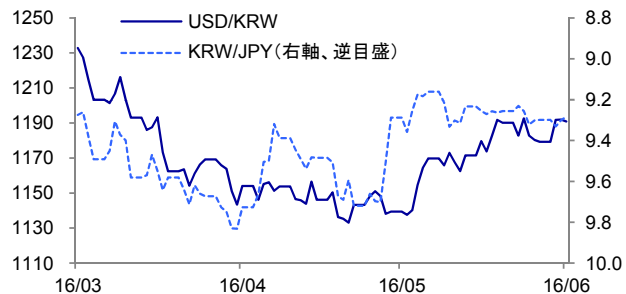
韓国人の語学能力は非常に高いと感じております。たとえば、コンビニやファーストフード店の店員が流暢な英語や日本語を話す場面をよく見かけます。

当行ソウル支店の社員も語学堪能な人が多いです。韓国語、日本語、英語のトリリンガル(3か国語話せる人)はもちろんのこと、中国語やドイツ語も話せるクワドリリンガル(4か国語話せる人)もいます。

最近是中国語を学ぶことが人気が高く、街中に中国語教室をよく見かけます。私の知り合いにも朝6時半から中国語を学んでから出社する人もおり、非常に熱心に勉強しています。逆に日本語を学ぶ人口は減ってきているようで、昔は日本語の看板が多かった明洞(ミョンドン、ソウルの繁華街)も、最近是中国語で埋め尽くされています。

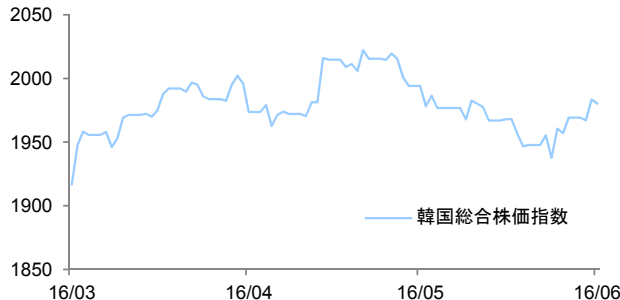
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/1	輸出(前年比)	4月	-10.3%	-11.2%	-8.2%
5/1	輸入(前年比)	4月	-12.2%	-14.9%	-13.8%
5/1	貿易収支	4月	\$7634m	\$8841m	\$9820m
5/3	消費者物価指数(前年比)	4月	1.0%	1.0%	1.0%
5/3	CPIコア(前年比)	4月	1.6%	1.8%	1.7%
5/11	失業率(季調済)	4月	3.8%	3.7%	3.8%
5/13	韓国銀行7日間レートの	5月	1.5%	1.5%	1.5%
5/31	鉱工業生産(前年比)	4月	-0.9%	-2.8%	-1.5%

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 32.25 ~ 33.00
TWD/JPY 3.30 ~ 3.50

台北資金室 辻野 順治

■ 先月の為替相場

5月のドル/台湾ドル相場は、6月の米利上げ観測の高まりを受けた米ドル反発や、新総統始動への警戒感による台湾株式市場からの外国人投資家資金流出もあり、小幅に台湾ドル安となった。

5月のドル/台湾ドル相場は、32.20近辺でオープン。3日は、米ドルが軟調に推移していたことや、前週末の米為替報告書も意識され、32.10台半ばまで台湾ドル高。4日は、前日のロックハート・アトランタ連銀総裁のタカ派発言を受けた韓国ウォンや人民元安の流れに加え、台湾株式の下落も重なり、32.35まで台湾ドル安が進んだ。5、6日は、米ドル反発が続いたものの、米4月雇用統計を控え、32.30台後半までの動きに留まった。

9日は、注目の米4月雇用統計は市場予想を下回ったものの、市場心理の改善により、結局は小幅米ドル高となり、32.40付近で変わらず。10日は、円、韓国ウォンなどが売られたことで、台湾ドルも32.50台へ。13日は、一段の円安や、台湾株式市場での外国人投資家の売り越し継続もあり、32.60付近へ。16日には、前週末発表の米4月小売売上高が市場予想を上回り、米ドル上昇となったことで、台湾ドルは32.60台半ばまで売られた。取引終盤には32.70台に達した。17日は一旦台湾ドルが反発するも、18日には、強い米経済統計の結果を受け、再度、32.60台後半をつけた。19日は、前日発表の米4月FOMC議事要旨を受けて6月利上げ観測が高まったことで、一時、32.80台まで台湾ドル安が進行。20日は、注目された台湾新総統の就任演説が無難に通過し、32.70台で一進一退の展開となった。

23日は、4月28日以降、外国人投資家の台湾株式売り越しが続いていたが、ようやく買い越しに転じ、32.65近辺へ上昇。24、25日は、32.60台でもみ合い推移となった。26、27日は、イエレンFRB議長講演を控え、小幅に米ドル安となり、32.50台へ小幅高となった。30日は、前週末のイエレン議長講演を受けた米ドル高に反応し、32.60台へ。31日は、前日、欧米市場が休場となり、新たな材料も無かったことで、32.60付近での取引が続いた。

■ 今月の見通し

6月のドル/台湾ドル相場は、小幅な台湾ドル安を見込む。

台湾経済統計は、1～3月期 GDP改定値は上方修正され、前年比▲0.68%。同時に発表された政府の通期GDP見通しは、前年比+1.47%から+1.06%へ下方修正された。輸出受注、鉱工業生産は、3月統計ではマイナス幅の縮小が見られたが、4月統計では、再度マイナス幅が拡大。3月分の動きは、2月の春節休暇の反動による一過性の改善だったとも言え、4月統計は期待外れな結果となった。

6月は台湾中銀の定例会合が予定されている。昨年9月、12月、今年3月と政策金利を引き下げ続け、市場金利であるオーバーナイト金利は0.2%程度まで低下してきた。(なお、台湾の政策金利は、民間銀行が中央銀行に手形割引を持ち込んだときの割引金利。)リーマンショック後の最低水準はオーバーナイト金利0.1%であり、利下げ後のオーバーナイト金利の動きを踏まえると、利下げ余地は残り2回となる。残り2回ではあるものの、①1～3月期のGDPは前年比マイナスとなったこと、②前回会合時に示した実質金利の各国比較では依然、台湾の実質金利が相対的に高いと示されたこと、③また、政策金利は1.5%であり、伝統的金融政策を続ける余地があるとの見解も示されたこと、などを踏まえると、今回会合でも利下げを行うことが自然だろう。昨年8月の利下げ示唆からの相場を振り返ると、米ドルインデックス下落、韓国ウォン横ばいの中で、小幅台湾ドル安となっており、台湾ドル安誘導への効果も出ている。米ドルの急落などがあれば、あっさり飲み込まれてしまう恐れはあるものの、6月米利上げ観測を背景とした米ドル堅調推移を前提とすれば、小幅な台湾ドル安が見込まれるだろう。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』

台湾は中国語が公用語となりますが、台湾語という言葉も存在します。数世紀前、福建省から台湾に来た人が多く、福建省の言葉が発展して台湾語になったとのこと。また同じ流れで、客家語という言葉もあり、当地のテレビでは、台湾語と客家語のチャンネルがあります。また原住民もそれぞれの言葉を持っているので、台湾自体に数ヶ国語があります。

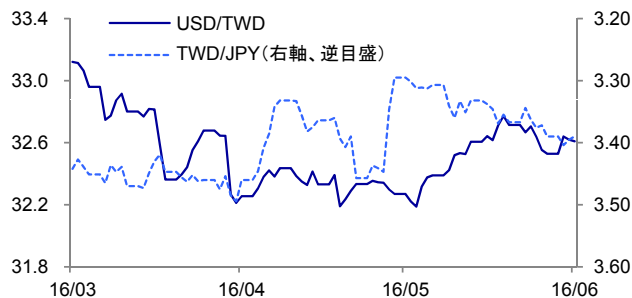
公用語の文字は繁体字といって字画の多い文字を使う点は中国大陆とは異なります。ただ、この点は日本での漢字と近いので、街の看板を見る際は頭に入ってきてやすいです。またピンインという発音記号は台湾では使われておらず、台湾独自の発音記号があります。

さて、当地の語学教育は活発で、英語教育のある幼稚園も多く、息子の通う幼稚園では、午後は、日本人班と台湾人班合同で、英語の授業となります。また授業はすべて英語という幼稚園も多くあります。これらの幼稚園の英語の先生は、ネイティブの他、アメリカ生まれ台湾育ち、台湾のアメリカンスクール卒業、アメリカの大学卒業という経歴の人も多く、発音も流暢です。英語を習いたいという需要と、英語教師の供給が上手く合致しているからこそ、活発な英語教育が成り立つのだと思います。また、大学を出て、一斉就職という訳ではないので、海外留学経験者も多いです。

一方、赴任してから実感したのは、そもそも中国語が広く通用するということです。中国大陆は元より、香港、シンガポール、マレーシアなどとは、中国語で会話が成り立つので、中国語が話せるだけで、世界が広がると感じました。

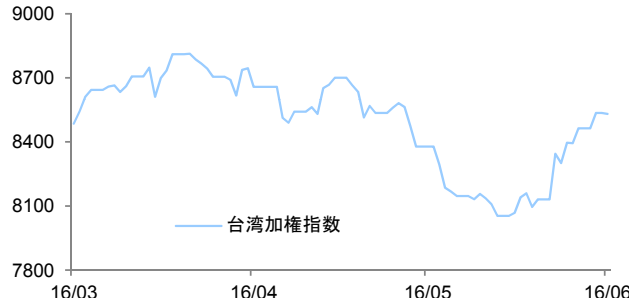
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/5	CPI (前年比)	4月	1.50%	1.88%	2.00%
5/9	輸出 (前年比)	4月	-8.30%	-6.50%	-11.40%
5/9	輸入 (前年比)	4月	-9.20%	-9.60%	-17.00%
5/20	輸出受注 (前年比)	4月	-4.50%	-11.10%	-4.70%
5/23	失業率	4月	3.93%	3.97%	3.92%
5/23	鉱工業生産 (前年比)	4月	-1.60%	-4.06%	-3.57%
5/27	GDP改定値 (前年比)	1Q	-0.80%	-0.68%	-0.84%

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7600 ~ 7.7800
HKD/JPY 13.89 ~ 14.40

香港資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【5月の香港ドル直物相場】

ドル/香港ドルは、4月FOMC議事要旨の内容がタカ派であったことから徐々に水準を切り上げて、7.77付近で推移した。6月FOMCにおける利上げ可能性が再度市場に織り込まれ、ドル買いが強まった結果7.76から7.77付近へ上昇した。しかし、1年のドル/香港ドルフォワードポイントは0～100ポイントの間でレンジ推移した。また、米利上げ可能性や中国経済の先行き懸念が出てきたにも関わらず、香港ドルは穏やかな動きとなった。

【5月の香港ドル金利】

5月の3か月物HIBORは0.54%から一段と下落し、今年1月以来となる0.51%台での推移となった。香港ドルの流動性を示す香港金融管理局(HKMA)が発表する4月末時点の当座預金残高(民間銀行がHKMAに対して持つ預金)は、紙幣発行量が減っているにも関わらず引き続き3300億香港ドル前後の水準を維持。香港ドルの金利スワップレートはほぼ横ばいとなった一方で、ドル金利スワップレートは6月の利上げ期待を再度織り込む形で上昇し、香港ドル/ドル金利スワップの差は縮小した。5年物については、ほとんど同水準で取引されており、差はほぼない。香港ドルベシススワップ(HKD HIBORとUSD LIBORのスプレッド)は、米利上げ期待からベシススワップはマイナス幅を縮小したもの、香港ドル転するフローは特段見られず静かなマーケットであった。

【5月の香港株式市場】

ハンセン指数は、中国の景気減速懸念の再燃や米利上げ期待の再上昇などを手掛かりに、19,000台後半から200日移動平均線となる21,674付近のレンジとなった。比較的マーケットは落ち着いており、資本流出の懸念が残る中、ハンセン指数は20,000付近で安定的に推移した。

■ 今月の見通し

【6月の香港ドル直物相場】

ドル/香港ドルは7.76から7.78のレンジ推移を予想する。米6月利上げ期待の再浮上により金利差が拡大し、それがドル/香港ドルのレートを上昇させるだろう。FRBが利上げペースについて以前と比べタカ派になったことから、ドル買いの流れが加速して香港ドルの上値を押さえると思われる。しかし、今までのところオフショア人民元マーケットは落ち着いており、今年1月に見られたようなドル/香港ドルの急騰はありそうもない。一方、配当支払いのために香港ドルを買う動きが下支えするだろう。

【6月の香港ドル金利市場】

短期ゾーンの香港ドル金利は、高い流動性にも支えられて安定的に推移すると思われる。6月の米利上げ可能性が高い中、ドル調達圧力が高まりやすく、マイナスとなっている3か月物HIBORとドルLIBORの金利差はさらに拡大を続けよう。また、米金利上昇は香港ドルベシススワップを引き上げることにもなる。しかし、米金利上昇や中国経済の成長が1月と比べて弱まってきていることから、市場のセンチメントが一段と回復すれば、香港ドル金利は引き続き安定的に推移すると思われる。

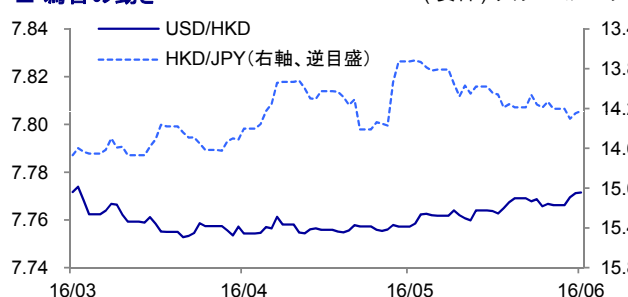
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』

イギリスの植民地や多くの移民によって発展してきた香港の歴史から、香港人の英語力は他の地域の人々に比べて非常に高い。加えて、香港経済が20年来にわたって中国本土との統合を進めてきたことから、多くの香港人は普通語(北京語)を話すことができる。今では広東語に代わって普通語の中国語レッスンができることが学校の先生に求められており、この特徴は特に若い世代で見られる。中国本土や他の諸外国からの旅行者にとっては、非常に過ごしやすい環境である。次回の旅行では、行商人から買い物をする時、店のオーナーと自分自身の言葉で値切り交渉をすると、彼らに驚かれるかもしれない。

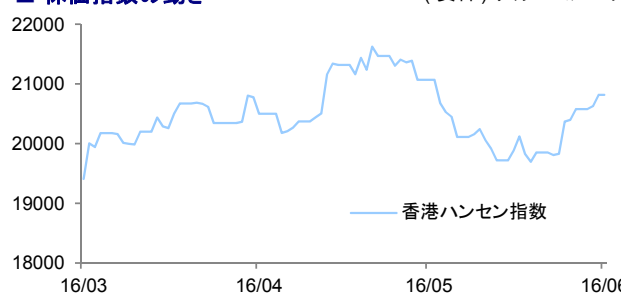
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/5	日経香港PMI	4月	--	45.3	45.5
5/5	小売売上高(価額、前年比)	3月	--	-9.80%	-20.60%
5/5	小売売上高(数量、前年比)	3月	--	-8.80%	-19.50%
5/6	外貨準備高	4月	--	\$360.8b	\$362.0b
5/13	GDP(季調済/前期比)	1Q	--	-0.40%	0.20%
5/17	失業率(季調済)	4月	--	3.40%	3.40%
5/23	CPI(前年比)	4月	--	2.70%	2.90%
5/26	輸出(前年比)	4月	--	-2.30%	-7.00%
5/26	輸入(前年比)	4月	--	-4.50%	-5.80%
5/26	貿易収支	4月	--	-31.0b	-47.0b

中国人民元相場

予想レンジ:	USD/CNY	6.4000	~	6.6000
	CNY/JPY	16.36	~	17.66
	100JPY/CNY	5.6650	~	6.1100

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 上城戸 千尋

■ 先月の為替相場

【為替相場:6.47~6.59の推移】

人民元安基調での推移。月初は米雇用統計を控え、これまで積みあがっていたドル売りポジションが解消される動きからドルインデックスが上昇。人民銀行仲値も連日ドル高元安に設定され、実勢相場は人民銀行仲値に沿うように元安方向に推移。

9日には共産党機関紙の人民日報が、当局関係者と噂される「権威人士」のインタビュー記事を掲載。借入依存からの脱却等構造改革の必要性について改めて強調し、「経済の運行はU字型ではあり得ず、V字型でもなく、L字型の趨勢となる。1年や2年では終わらない」と述べ初めて具体的な期間について言及。その結果、中国経済及び人民元の弱気な見通しが一段と市場に織り込まれ相場を圧迫。オフショア市場ではオンショア市場以上に元安が進行し、オンショア人民元市場とオフショア人民元市場の乖離幅は一時400ポイント近くまで拡大。その後はいったん落ち着く場面もあったが、18日に公表された米FOMC議事録の内容が市場予想よりタカ派と受け止められ、米早期利上げ観測の強まりからドルインデックスが上昇。翌19日の人民銀行仲値は6.531と約3か月半ぶりとなる元安水準で設定され、実勢相場はその後も人民元安基調での推移となった。

【金利相場:流動性懸念解消、安定した相場推移】

比較的安定して推移。4月末に増値税改革に対する細則が発表され、噂されていたインターバンクのレボ取引は課税対象ではないと確認されると、月初はそれまで上昇傾向にあったO/N SHIBORも約5ベーシスポイント低下し2%程度の水準で横ばいで推移した。マネーマーケットでは、月半ばまで公開市場操作がネット資金吸収となっていたことに加え、納税に向けた資金需要等により一時的に流動性がタイトになる場面もあったが、月後半の公開市場操作がネットで資金供給に転じたほか、MLF(中期貸出ファンリティ)を通じた資金供給や中資系大手行からの資金放出等もあり、市場の流動性は保たれ全体的に安定した相場となった。

■ 今月の見通し

【為替相場】

一時的には元安方向への推移するもその後は反発を予想。6月FOMCでの利上げの可能性が意識され、今後の米国経済指標の結果次第では月半ばにかけてドルインデックスが上昇し元安が進む展開が見込まれる。利上げが決定すれば一段と元安に進むことが予想されるものの、PBOCが人民銀行仲値設定等を通じて「相場の安定」を維持するものと想定される。中国当局の外貨買いに対する規制について変更がないことも踏まえると、一時的に元安に進んだのちは元高方向に徐々に進むと予想。

先月は、オフショア市場では一段と元安が進みオンショア人民元市場とオフショア人民元市場の乖離幅が一時大きく拡大。1月のギャップ拡大時にはオフショア市場で当局の介入とおぼしきドル売りフローが見られたことから、乖離幅の水準には注意したい。

【金利市場】

安定した相場を予想。先月は納税資金需要が高まりから市場流動性がタイトになった局面もあったが、中資系大手行が資金の出し手にいるほか、当局が公開市場操作やMLFを通じて資金供給を行い、相場の安定を図ると見られ、急激な金利上昇の可能性は高くないだろう。

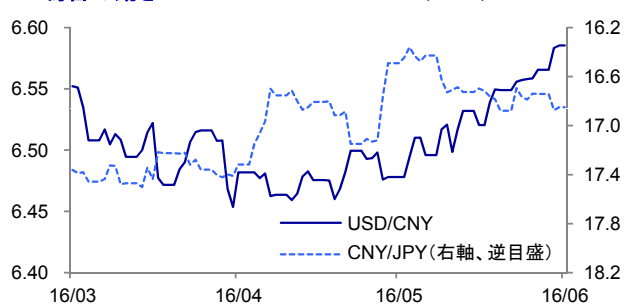
■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』

当地の人たちが話す中国語は発音が難しく、生粋の日本人の私からしたら母国語と言えどそんな中国語を使いこなしているだけでもすでにレベルが高いと感じます。中国語の発音は“四声”と呼ばれる四つの音のイントネーションがあり、音が一緒でも四声が違えば意味が異なります(日本語でいう雨と飴の違いのようなものですが、この違いが4パターンも存在します)。この四声も強調して話してもらえれば聞き分けができますが、流暢な中国語だとあまり判別できず、結局は話の流れで判断する必要があります。一言に中国語と言っても、主に使われている“北京語”(＝いわゆる標準語)、“上海語”(＝香港等南部で使用)の2つに加えて、“広東語”に代表される方言も豊富。他のエリアの言語は、聞いたら理解できるも話せないor理解すら出来ない(まるで外国語のよう)ですが、どのエリアの人も北京語だけはわかるようです。加えて、英語教育は小学1年生からスタートしており、都市部の中学校や高校では、第二外国語まで学習できる語学に力を入れた学校も多いとのこと。なるほど、英語を含めた語学力が高いのも納得です。また、日本のアニメの影響で日本語を覚えた・勉強し始めたという声もよく聞き、日本語を使える人も多い印象です。上海の街中では中国語しか通じないところもまだ多いのですが、欧米人が多く集まるエリアのレストランでは英語が通じるのは当たり前。同様に、日本料理屋は日本語が通じることから、全体的に日本人には過ごしやすい都市です。しかし、移動でよく使うタクシーは中国語しか使えないことがほとんどなので、観光で上海を訪れる際は目的地の地図等、事前準備をすることをお勧めします。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/1	製造業PMI	4月	50.3	50.1	50.2
5/8	貿易収支(RMB建)	4月	254.95B	298.00B	194.60B
5/8	輸出(RMB建)(前年比)	4月	4.3%	4.1%	18.7%
5/8	輸入(RMB建)(前年比)	4月	0.3%	-5.7%	-1.7%
5/10	CPI(前年比)	4月	2.3%	2.3%	2.3%
5/10	PPI(前年比)	4月	-3.7%	-3.4%	-4.3%

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3500 ~ 1.3900
SGD/JPY 78.50 ~ 81.50

アジア・オセアニア資金部 吉田 聡

■ 先月の為替相場

5月のシンガポールドル(SGD)相場は、下落。総じて軟化した中国経済指標やFRB高官による相次ぐタカ派発言を受けてアジア通貨が軟調推移する中、前月の通貨政策でSGD高誘導の停止が発表されたSGDも5月は冴えない値動きとなった。

月初、1.34台中盤で始まったSGDは、3日に豪中銀が予想外の利下げを決定したことを背景に豪ドルが下落する動きにつれ安となり、1.35台に下落。6日に発表された米4月雇用統計の非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に下回ったことで、一時米ドル売りが強まる場面もあったものの、直後にダドリー・NY連銀総裁が米利上げ見通しについてタカ派な発言をしたことで、市場では次第にドル買いが持ち込まれ、結局SGDへの影響は限定的となった。

9日、カナダの森林火災を受けた原油生産の減少観測を受けて一旦上昇した原油価格が、利食い売りに押されて下落に転ずると、マレーシアリングへの売り圧力がSGDにも波及し、SGDは1.37台まで急落。その後は堅調推移する原油相場を眺めて安値圏での揉み合いが続いたが、13日にシンガポールの3月小売売上高が前年比で予想比上回ると、SGDは1.37台中盤から丁度近辺まで値を戻した。

16日の週は、週末に発表された一連の中国経済指標(4月鉱工業生産、小売売上高、固定資産投資)が悪化したことを背景に、中国経済に対する懸念が再燃。併せて、18日に発表されたFOMC議事要旨が6月の利上げ期待を高める内容になると、米ドルが急伸する動きにSGDは再び急落。その後も米早期利上げに対する思惑を背景にSGDは安値圏となる1.38台前半で推移。

23日、シンガポールの4月消費者物価指数(CPI)が前年比で▲0.5%と発表されると、▲1.0%だった前月に比べ改善した他、市場予想も上回ったことが好感され、SGDは1.37台後半まで買い戻された。その後は相次ぐFRB高官のタカ派発言を受けたドル買いと、好調な米4月住宅関連指標や堅調な原油相場を背景とする域内株価上昇を受けたSGD買い戻しの動きが交錯し、月末にかけて1.38近辺で一進一退の動きを続けている。

■ 今月の見通し

6月のシンガポールドル(SGD)相場は、15日米FOMCでの利上げ有無が焦点となりそうだが、基本的には足許のドル高相場に持続性はないと考えており、SGDは5月のSGD安相場から反転する展開を予想する。

5月のSGD相場は引き続き中国経済情勢や原油相場動向に加え、米利上げのタイミングに関する思惑に左右される展開だった。特に、5月18日に発表されたFOMC議事要旨が6月の利上げ期待を高める内容だったことが起点となり、その後FRB高官からの相次ぐタカ派発言が米ドル高相場を牽引。5月からアジア通貨は全般的に軟調推移となっているが、今後このドル高相場自体が、今年の頭に見られたような、FOMCメンバーの政策金利見通しの後ズレを喚起させる可能性は捨てきれない。今後6月の米利上げ期待が剥落していくような展開となれば、5月に売られたSGDには買戻しの動きがみられるだろうし、仮に利上げがあったとしても、相場が落ち着いた後は利益確定のドル売りが緩やかなSGD高相場を形成すると考えている。

他方、シンガポール固有の事情でSGDが動意付く展開は期待しにくい。シンガポール金融管理局(MAS)が重視しているインフレ動向については、引き続き前年比マイナスの状態が継続している他、25日に発表された1～3月期GDPは前年比+1.8%と概ね予想通りの結果になっており、4月にMASがSGD高誘導を停止した環境から特段変化は見られない。どちらかといえば、4月輸出に減速が見られた中国など外需の動向が弱いことを背景に、シンガポール経済の足取りは重くなることが懸念されているが、成長率の減速は4月の通貨政策見直し時にMASの中では既に織り込まれており、SGD動向への影響は限定的と考えている。

SGD上値の目途としては、5月に一方的にSGD安が進む前の水準、1.35近辺が考えられ、一方、下値については、節目となる1.40が目途と言えそうだが、15日の米FOMCにて利上げが決定されるようなことになれば、一時的に1.40を超える可能性はあるだろう。

6月の材料は海外要因としては、米FOMC(14～15日)、日銀金融政策決定会合(15～16日)、国内要因としては18か月連続の前年比マイナスが続いている5月消費者物価指数(CPI)に注目が集まる。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』
シンガポールに対して昔持っていたイメージ。「東南アジアのビジネスの中心地。人種は中華・欧米・インド系と多岐に分かれているが、皆が英語を話してバリバリ働いている」。

実際、シンガポールに赴任してみても、ほぼそのイメージ通りだったが、英語が常に通じる訳ではない。ホームカーと呼ばれるローカルフードの屋台等では英語が通じないことがよくある。特に年配の方。

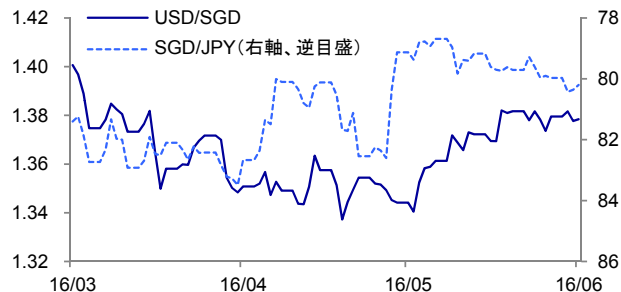
シンガポールはマレーシアから独立したこともあり、マレー語が国語。その他公用語として、英語・中国語(マンドリン)・タミル語(インド)。地下鉄の案内は、4言語で記載されている。同じ部署のシンガポリアンに聞いたところ、英語はFirst Languageとして学校で学ぶので、基本的には全員が話せる。その他3言語は、Second Languageとして、どれか1つを学ぶことになるので(3言語以外の日本語などを選択する人もいる)、シンガポリアンだからと言って、4言語全てを話せる訳ではない。

シンガポリアンの英語は「シングリッシュ」と呼ばれ、世界では、純粋な英語(?)とは別のモノとして扱われているが、香港・インドで勤務した自分からすると、そうは思わない。アジア人の英語は、西洋人の英語とは異なる。シンガポリアンの英語より、インド人英語の方が聞き取りにくい。(同じく、「ヒングリッシュ」として差別されているが)シンガポリアンが語尾に付ける「lah～?」だって、香港人もよく使っていた。「Can, can!」はシンガポールで初めて聞いたが意味は分かる。

発音の問題はあるが、アジア人の顔をして、英語+もう1言語を話すシンガポリアンの語学力はやはり高いんだと思う。(木原達章)

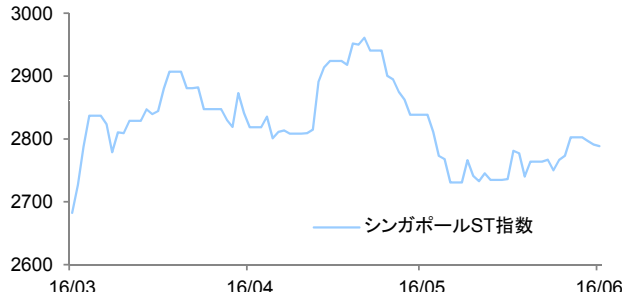
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/3	購買部景気数	4月	49.5	49.8	49.4
5/3	電子機器指数	3月	-	49.5	49
5/13	小売売上高(前年比)	3月	3.6%	5.1%	-3.2%
5/17	非石油輸出(前年比)	4月	-8.4%	-7.9%	-15.6%
5/23	CPI(前年比)	4月	-0.7%	-0.5%	-1.0%
5/26	鉱工業生産(前年比)	4月	-0.2%	2.9%	-0.5%

タイパーツ相場

予想レンジ: USD/THB 35.00 ~ 36.20
THB/JPY 3.05 ~ 3.12

バンコック資金室 井上 由貴

■ 先月の為替相場

●ドル/パーツは上昇

上旬、35.00台へ上昇。月初2日、34.90台で取引を開始。1週目はオンショア市場が3、4日のみの取引となったが、3日に豪州準備銀行(RBA)が予想外に政策金利25bpの引き下げを決定したことを受けたドル買いアジア通貨売りの流れからドル/パーツは35.00台を回復。その後も原油価格の下落がドルをサポートし、35.20台まで上値を伸ばした。中旬、ドル/パーツは続伸し一時2月以来となる35.80台へ。タイ中銀(BOT)は11日に開催された金融政策決定会合(MPC)においては市場予想通り全会一致で政策金利1.50%の据え置きを決定。声明文では利下げの余地を残すとともに、パーツ高への懸念が示されたことからドル/パーツは35.30近辺まで上昇した。その後もパーツ売り優勢の展開が続き35.40台半ばまで上昇。その後、16日に国家経済社会開発庁(NESDB)が発表したタイ1～3月期GDP成長率が市場予想を上回る前年比+3.2%となると、一旦はパーツ買いが優勢となりドル/パーツは35.30台半ばまで急落。しかし下値は限定的で、翌17日にはタイ国債利回りが急騰する展開にドル/パーツは35.60台まで上昇。18日に公表されたFOMC議事要旨において6月利上げの可能性が示唆されるとドル買い優勢となり一時35.80パーツ近辺まで上昇。下旬、ドル/パーツは上値重く推移。FOMC議事要旨後に急伸した米債利回りが調整したことを背景にドル売りアジア通貨買いが優勢となるとドル/パーツは35.60割れの水準までパーツ高が進んだ。24日から25日にかけてはFRB高官から年内2回の利上げを指摘する発言が相次いだことでじりじりとドルが買われ、ドル/パーツは再び35.80近辺まで上昇するも、実需勢を中心に売り意欲が強かったこともあり35.60台まで急速に値を戻す荒い値動き。その後、商務省が発表した4月貿易統計では輸出が4年半ぶりの低水準となる前年比▲8.0%となるとドル/パーツは35.70台まで値を戻した。26日にかけてはドル高の調整や原油価格の上昇を背景としたアジア通貨高に連れ一時35.50台後半まで下落。しかし27日にイエレンFRB議長が講演において早期利上げに言及するとドル買い優勢の展開となり、再び35.80近辺まで上昇した。

■ 今月の見通し

●ドル/パーツは上値の重い展開を予想する

タイ経済の先行きは引き続き不透明なままである。16日にNESDBが発表したタイ1～3月期GDP成長率は、前年比+3.2%と、2013年4～6月期以来の高水準となったものの、金の輸出拡大が寄与していることが大きな要因となっており、手放して歓迎できる結果とは言いがたい。NESDBは16年通年のGDP見通しをこれまでの「前年比+2.8～3.8%増」から「同+3.0～3.5%増」(中間値+3.3%増)に上方修正するなど、強気の見方を示している。しかし25日に発表された4月貿易統計においては年初から好調であった金製品の輸出が落ち込んだことを背景に前年比▲8.0%の輸出の大幅落ち込みが示され、当局の強気な見通しとは裏腹にタイ経済の脆さ、先行き不透明感を印象付ける結果となった。ただし、ドル/パーツ相場の方向性を占う上で忘れてはならない貿易黒字に関しては、輸入の大幅減少を背景に引き続き積み上がりを見せており、弱いタイ経済の中にあっても中長期的なパーツ高圧力として存在感を示しそうである。金融政策に目を向けると、5月11日に開催されたBOTのMPCでは、全会一致で政策金利1.50%の据え置きが発表された。議事要旨では、パーツ高への懸念が示されるとともに「利回りを求める行動により金融安定へのリスクが高まっている」ことが指摘されている。4月半ばにかけて過去最低値を更新し続けていたタイ国債利回りが先月半ばに急騰したことは、行き過ぎた動きの巻き戻しという意味においてはBOTの指摘がまさに当たっていたともいえるだろう。ただ、タイ債券市場協会(TBMA)のデータを見ると、国債利回りが急騰しているにもかかわらず外国人投資家のタイ国債売りは限定的で、月次ベースで見るとタイ国債へは資金流入超となっている。6月に入り米利上げ観測が一段と高まることになれば、タイ国債からの資金流出がパーツ安をもたらす可能性もあり、注意しておきたい。足許のドルパーツは36.00の大口を前に失速気味である。5月はほぼ一本調子でパーツ安が進んでおり、このペースのままでパーツ安が進行する場合には、約3年ぶりの水準まで大幅に蓄積している外貨準備を整理するという意味でもBOTの介入が意識される。今年に入ってから5か月の間ほぼ35.00台という狭いレンジで推移してきたこともあり、36.00台では輸出企業の売り意欲も強そうである。今月のドルパーツは36.00を前に一旦の調整入りを予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』

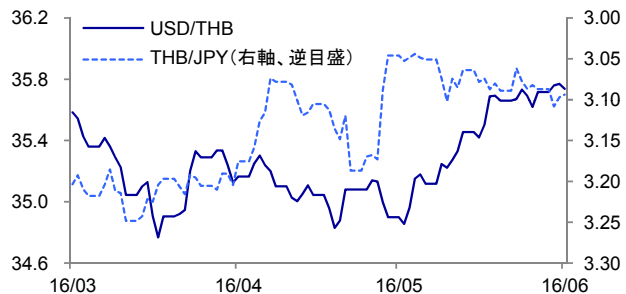
タイ語の発音は極めて難しいです。ひとつの単語自体は短いものが多く、発音の仕方で意味が分かります。「近い」と「遠い」は両方とも「クライ」。発音の違いで意味を判断する、という何とも素敵な言語です。ですので、本などを読みながら練習し発音をしたとしても、タイ人に伝わることはほぼなく、「アア?」と聞き返されることとなります。

同僚の若手女性に、若者言葉を教えてもらいました。
「ナタディー」: good lookingの意味
「ジュンバーイー」: very の意味
「ナタディー ジュンバーイー」⇒ 超、超、イケメン!!!!

くらの意味でしょうか。20代前半くらいまでの若者が使うようです。アラサーの私が使用してよいかは分かりませんが、ここぞというときに使用し、若者イケメンタイ人に対応しようと思っています。最後に、もうひとつ実用的な情報を。日本語の「キレイ」はタイ語では逆の意味になります。タイにご旅行を計画されている男性陣は是非ご注意くださいませ。

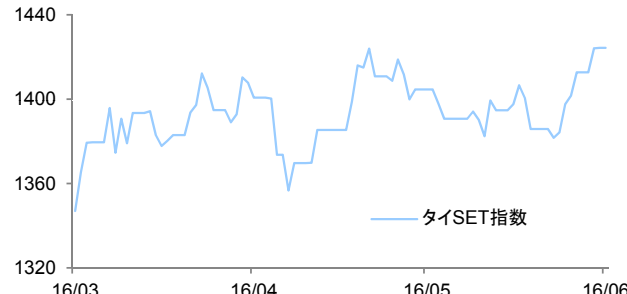
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/1	CPI (前年比)	4月	-0.11%	0.07%	-0.46%
5/3	消費者信頼感	4月	-	72.7	73.5
5/11	政策金利		1.50%	1.50%	1.50%
5/16	GDP (前年比)	1Q	2.8%	3.2%	2.8%
5/25	通関貿易収支(USD)	4月	\$450M	\$721M	\$2966M
5/30	自動車販売台数	4月	-	54986	72646
5/31	製造業生産指数	4月	0.5%	1.5%	2.2%
5/31	設備稼働率指数	4月	-	58.4	72.8
5/31	経常収支	4月	\$2000M	\$3164M	\$4952M

マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 4.02 ~ 4.17
MYR/JPY 26.00 ~ 28.10

アジア・オセアニア資金部 宮地 崇

■ 先月の為替相場

先月のリングは、2日が休場であった為、3日に3.91台前半でオープン。3日に豪州準備銀行(RBA)が市場予想に反して25bpの利下げを実施したことや発表された中国4月製造業PMIが市場予想を下回ったことから、リスク回避の動きが台頭。また、マレーシア政府系投資会社(1MDB)に対する懸念も再燃したことも手伝い、5日にはリングは3月下旬以来となる、4.01台後半まで値を下げた。

9日には、前週末に発表された米4月雇用統計が予想を下回る内容であったことから、リングは3.990まで買われたものの、10日には全般的なリスクオフ地合に加え、前日の海外市場で原油価格が下落したことも手伝い、リングは4.06台前半まで下落。その後はやや値を戻すも、週末にかけて軟調地合となり4.04台で越週している。尚、13日にマレーシア1～3月期GDPが発表され、前年比+4.2%と予想を上回る結果であったが相場への影響は限定的となった。

月半ばには、前週末に発表された中国の経済指標が概ね弱い内容であったことが嫌気され4.04台前半で寄り付くも、その後はアジア通貨買戻しの動きに4.01台前半までリングは一旦上昇。しかし、18日の海外時間に公表されたFOMC議事要旨のタカ派な内容から、米国の6月の利上げ観測が急浮上。19日にはリングは急落し、一時4.09台前半まで値を下げた。

月後半に入ると、リングは再び軟調な値動きを見せた。24日には、1MDBを巡る疑惑にスイスの金融機関が関与とスイスの金融市場当局が発表。この動きにリングは再び下げ足を速め、今月の安値圏となる4.13台前半まで下落。その後は、原油価格が50ドルを窺う展開となったことや調整を兼ねた買い戻しの動きに4.07台後半まで値を戻すも、リングの反発は限定的となった。

■ 今月の見通し

5月13日に発表されたマレーシア1～3月期GDPは前年比+4.2%と市場予想は上回ったものの、資源価格の低迷が響き4半期連続の減速となった。引き続き、個人消費が底堅いなど明るい材料もあるが、弱い海外需要や政府・中銀などの景気喚起に対するサポートが限られるなか、マレーシア経済に従来のような高成長は考えにくい。かかる状況下、ファンダメンタルズに力強い反発が見られないなかで積極的にリング買いを進めづらい。

また、最近の長期国債市場では今年1月から4月までのような債券買いの動きが鈍化。マレーシア株式市場も上値の重い展開が続いており、海外投資家のマレーシアへの投資意欲が減退していることが想定される。これまでリングの上昇を支えてきた海外投資家の資金再流入が減少すれば、リングの上昇余地は限られよう。

一方、5月17日にはイブラヒム新総裁になってからの初会合が開催され、大方の予想通り、政策金利は据置。声明文を通じての現状認識や今後の見通しには大きな変化は見られなかった。ひとまずゼティ前総裁の路線を踏襲した格好となっており、こちらは金融政策運営の安定が好感され、リングの下値をサポートする材料か。

さらに、直近の底堅い原油価格の値動きは一時的にリングの支援材料となろうが、中国経済停滞の思惑が残るなか、継続的は反発は予想しづらく、長期的なリングの買い材料としては、やや力不足の印象は拭えない。

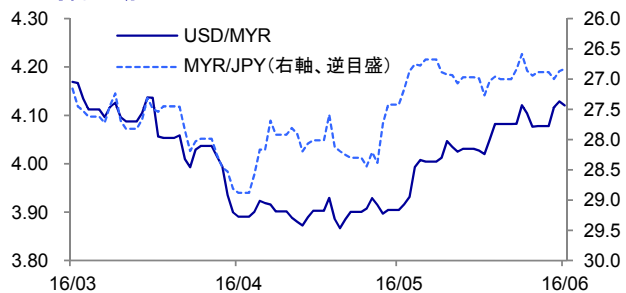
好調とは言い難いファンダメンタルズや海外投資家の資金再流入の鈍化、さらには引き続き1MDBの問題も燃っている状況ではリングを買い進めづらく、今月もリングの上値の重い展開を予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』
マレーシアを語る上でまず間違いなく出てくるのがこの話題です。アジア圏で日常生活のほぼ全て(100%と)いっても過言ではない)を英語で済ませられてしまう数少ない国、それがマレーシアです。勿論、公用語のマレーシア語があり、その上で英語もほぼ皆使いこなしています。従ってマレー系マレー人が最低2カ国語、中華系が2カ国語+中国語(普通語、広東語、客家語、福建語の何れか、またはそのうちの複数)、インド系が2カ国語+インド語(ヒンディー、シンハラ、タミルが多いみたいです)ということになり、マレーシア人自身も大概、「マレーシアの誇る点って何?」と質問すると「語学能力に長けていることかな」と返ってくるが多々あるので、本人たちも自覚しているのでしょう。私だけではないとは思いますが、彼らの頭の中はどうなっているんだろう、何故意図も簡単に言語を切り替えながら話せるんだろう、と思う訳ですが、幼少の頃から複数の言語を耳にし、「主語+動詞+〇〇」文法の言葉故に何かのきっかけですと頭の中に入っているんでしょうか。でもそんな彼らもやはり日本語は発音、文法共に難しいようです。ただ時々「俺はアニメや歌で日本語を独学した。下手な日本語すまん。お前、俺に日本語教えて下さい」のような若干怪しいながら十分意味が伝わる日本語を喋るマレーシア人を見掛けるにつけ、やはり高い語学力を持つてるなと思わされます。
(マレーシアみずほ 山田)

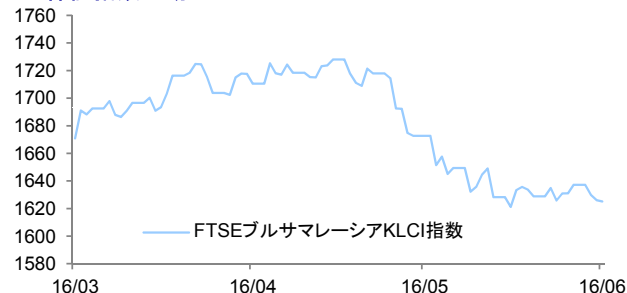
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/6	輸出 (前年比)	3月	-1.0%	0.2%	6.7%
5/6	輸入 (前年比)	3月	-0.3%	-5.5%	1.6%
5/6	貿易収支 (MYR)	3月	7.10b	11.19b	7.35b
5/12	鉱工業生産 (前年比)	3月	3.0%	2.8%	3.9%
5/13	GDP	1Q	4.0%	4.2%	4.5%
5/19	BNM翌日物政策金利		3.25%	3.25%	3.25%
5/20	消費者物価指数	4月	2.1%	2.1%	2.6%

インドネシアルピア相場

予想レンジ:

USD/IDR 13300 ~ 13800
 IDR/JPY 0.78 ~ 0.85
 JPY/IDR 117.70 ~ 127.70

(注) 100インドネシアルピアあたりの対円レート

インドネシアみずほ銀行 河合 良介
 アジア・オセアニア業務部 小泉 聡

■ 先月の為替相場

5月は下旬にルピア安が進行し、ドル/ルピアは一時13670レベルと今年2月上旬以降のルピア安水準を付けた。

月初はレンジ相場を継続し、ドル/ルピアは13200前後で揉み合うも、連休(インドネシアは5・6日が祝日)明けはレンジの中心を13300に切り上げて中旬まで推移。

そして17日に発表されたFOMC議事要旨がタカ派的な内容になると、ドル高とインドネシアからの証券投資流出が進行してルピアは急落。20日は13600台での推移となり、わずか3日で300ポイント超の上げ幅となった。

尚、インドネシアの経済指標は、4月インフレ率(前年同月比)が+3.60%と前月の同+4.45%から下落し、4月末外貨準備高は1,077億ドルと前月末比増加した。また、4月貿易収支は+6.7億ドルの黒字と総じてネガティブな結果とはならなかったが、昨今のルピア相場は米金融政策や証券投資の動向が影響を及ぼすことから、各経済指標によるルピア相場への影響は限定的となった。

■ 今月の見通し

今月のルピアは値動きの荒い展開を予想する。

ドル/ルピアは先月下旬の急落を見る限り、米金融政策への思惑や、それに伴う証券投資流出による影響の大きさを改めて認識させられた。そのため、ルピア相場は外的要因に左右される地合いが続くと考えられるため、米金融政策の動向に一喜一憂する相場が続こう。

ただ、大手格付会社であるS&Pによるインドネシアの格付動向は注目しておきたい。3大格付会社(Fitch, Moody's)でインドネシアの格付を投資適格に指定していないのはS&Pだけであるが、先月11日にS&P幹部がジョコウィ大統領らと会談し、今後の格付引上げの可能性に言及した。

既にインドネシアの国債の4割弱の海外投資家が保有しており、仮にS&Pが格上げを決定しても証券投資が流入する余地は無いかもしれないが、3大格付会社が揃って投資適格に指定すれば、1997年のアジア通貨危機以来であるため、ポジティブセンチメントが醸成されるだろう。S&Pによる格付見直し時期は未定だが、例年のケースでは今月中旬頃であり、レバラン(断食明け大祭)前の重要イベントとなる可能性もある。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』

社内の公用語は英語であるため、現地スタッフは皆英語が話せますが、総じて日本人より慣れている感じがします。

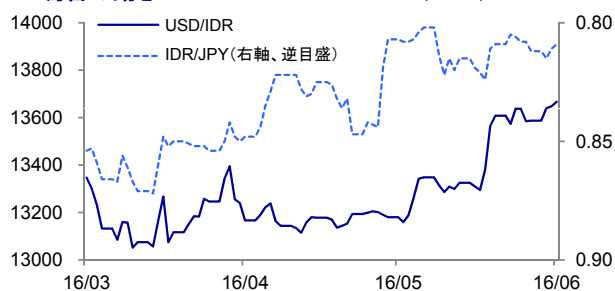
インドネシア語はそもそもアルファベットを使用しており、英語の語源に近い単語も多いです(例えば警察のインドネシア語はPolici)。そのため英語に対するハードルと言いますか、馴染みやすさが日本人より圧倒的に有利な感じもします。

しかし、インドネシア人の中には日本語が堪能な方も多くいらっしゃるの、英語に対するハードルの有無は言い訳になってしまうのかもしれない。

また、インドネシアは多民族国家が故に、インドネシア語といっても様々な方言や言語の違いがあるようです。確かに、ジャカルタで使用するインドネシア語をバリ島で使ってもインドネシア人の反応がイマイチだった経験もありますし、1万以上の島があるインドネシアでは相当数の言語があるとも推測されます。

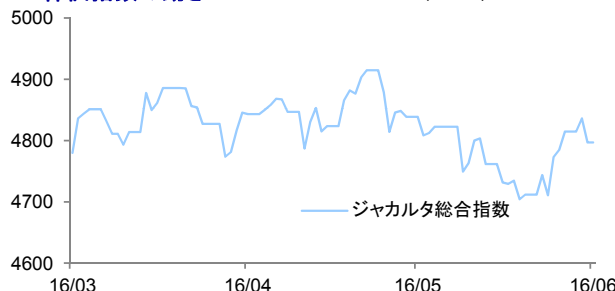
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/2	CPI(前年同月比)	4月	3.81%	3.60%	4.45%
5/4	GDP(前年同期比)	1Q	5.07%	4.92%	5.04%
5/10	外貨準備高(USD B)	4月	-	107.71	107.50
5/16	貿易収支(USD M)	4月	168	667	497
5/19	インドネシア中銀ターゲットレート	5月	6.75%	6.75%	6.75%

(資料) ブルームバーク

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 46.50 ~ 47.50
PHP/JPY 2.30 ~ 2.40

マニラ支店 杉山 泰憲

■ 先月の為替相場

ドル/ペソ相場は2日(月)に1ドル＝46.97ペソで取引を開始。週末の米4月雇用統計が意識されてドル買戻しが優勢な流れ。2日(月)、3日(火)は47.00ペソを挟んでの小動き。週明けの大統領選挙が意識されて次第にペソ安の展開になり、5日夜のFRB高官の利上げ支持発言にドル強含みとなると、6日(金)は47.35ペソまでのペソ安値を付けた。その後はポジション調整から47.09ペソで越過となっている。

大統領選挙投票日のため祝日となった9日(月)の後、10日(火)に1ドル＝47.20ペソで取引開始。フィリピン大統領選挙の開票結果は、ドゥテルテ氏の圧勝が確実となるに従い、選挙結果を巡る混乱などを嫌気して売られていたペソやフィリピン株式が急速に買い戻される展開となった。10日(火)は46.75ペソまでペソ買いとなり、翌11日(水)には46.55ペソ、さらに12日(木)は46.45ペソまでのペソ買い戻しとなった。13日(金)は週末も控えドルの買い戻しも入るものの、ペソ高水準の46.555ペソでの越過となっている。

週明け16日(月)は1ドル＝46.64ペソで取引開始。週の前半は欧米株式市場の上昇、原油価格の上昇からリスク選好モードとなって、ペソ買いが優勢になる展開となり、17日(火)には46.33ペソまでのペソ高・ドル安となる。しかし、同夜の米4月消費者物価指数(CPI)の良好な内容に加えてFRB高官の6月FOMCでの金利上げ示唆発言からドル買いに転じ、18日(水)は46.70ペソ、同夜のFOMC議事要旨がタカ派であったことから19日(木)は46.95ペソまでのドル高となる。20日(金)は週末を控えてポジション調整から緩んで46.75ペソでの越過。

23日(月)は46.70ペソで取引再開。FRB高官の6月FOMCでの利上げを示唆する発言が相次ぎドルが強含みとなり24日(火)には46.92ペソまでのドル高値を付けるが、原油価格の上昇、世界株価の堅調ぶりからリスク選好モードから一方的な新興国通貨売りにもなりにくく、ドルペソは46ペソ台後半での揉み合いが続く。

27日(金)は46.64ペソで週の取引を終えている。

■ 今月の見通し

9日の大統領選挙からの混乱を恐れていたフィリピン金融市場でしたが、90%近い投票率の中で元ダバオ市長のドゥテルテ氏が40%近くを得票する圧勝となったことで、さすがの反対陣営も文句のつけようもなく、かつてないほどに平和裏に大統領選挙が終わりました。

選挙後は、売られていたペソ・株式が急速に買い戻され元のレベルに戻るとともに、選挙前は同氏の過激な発言や国政レベルの政治経験がないことから何かと不安がられていましたが、足許は新政府の顔ぶれや、新政府の政策方針などの発表を期待とともに待っているという状況。

5月18日発表のFOMC議事要旨のタカ派ぶりに5月後半はドル高基調となり、ドル/ペソも46ペソ台後半の推移が続いている。しかし、19日発表の1～3月期GDPでは前年比+6.9%と前期(同+6.5%)よりも強い数字となっており、フィリピンは引き続き個人消費を軸とした高い経済成長を維持している。

足許は、米国の利上げ期待にかき消された格好になりペソ安水準での推移となっているが、フィリピン経済自体は極めて堅調であり、ドゥテルテ新政権がどのような経済政策を採るにせよ、足許は堅調な成長が続くものとみられています。したがって金利上げが6月に実施され金利先高観が解消すれば、ペソ高に反転する可能性が高いものと考えています。

中長期的には、たとえば同氏が徹底した汚職退治や犯罪撲滅に取り組んだ場合の、反対勢力からの反抗も懸念され、社会的混乱に陥るリスクも無視できませんが、圧勝の同氏に期待する向きは多く当面は静かに推移を見守るという流れになりそうです。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地の人たちの語学力』

耳がいい、としか言いようがありません。フィリピン人は、歌もうまい、ダンスもうまい。語学力もきわめて秀でています。

フィリピンの公用語のタガログ語というのはレイテ島だけの言語で、セブを中心とした地域で最大人口規模を持つビサヤ地方のビサヤ語とはかなり異なるようです。したがってビサヤの人々は、ビサヤ語、タガログ語、英語のトリリンガルは当たり前。ガードマンから、ドライバーから、トリリンガルです。

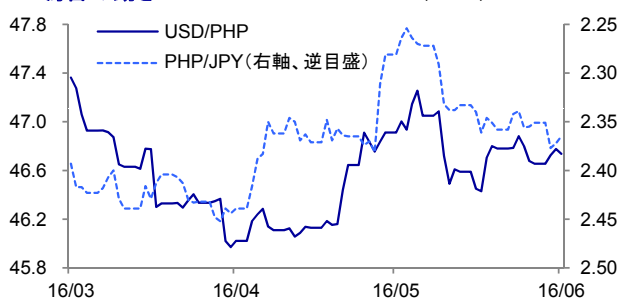
おまけに、必要に応じて韓国語、日本語、中国語なども話してしまう人が多いわけですから、フィリピン人というのは、英語一つで四苦八苦している日本人には考えられないほどの高い語学能力を持っている、あるいはそんな環境に住んでいる、ということだと思います。

シンガポール出張からの帰りの飛行機で隣に座ったフィリピン人の女性は、出会い系?のサイトでハンガリー人の彼と出会い、英語で彼とチャットをする一方でハンガリー語を習得。そして数年後に彼と結婚。二人でドイツのミュンヘンに住みながらアメリカ人が経営するビザ屋で働いているそうで。ハンガリー人の彼は英語のチャットさえ翻訳機能に頼っていたそうで、いまでもハンガリー語しか話せない一方、彼女は彼との会話にハンガリー語、生活のためのドイツ語、仕事の英語、おまけにタガログ語に、ミンダナオ語と五か国語を操ることができるとのこと。

私? 日本語、大阪弁、英語にタイ語少々。とてもかきません。。

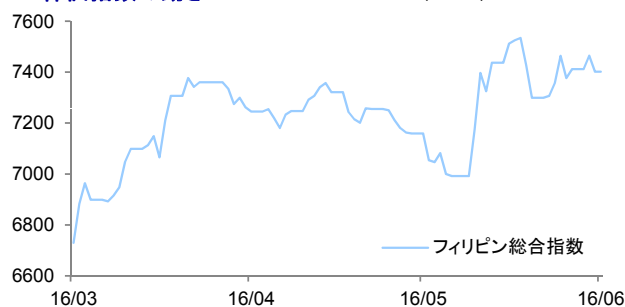
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/5	CPI (前年比)	4月	1.2%	1.1%	1.1%
5/6	外貨準備高	4月	-	835億ドル	826億ドル
5/11	輸出 (前年比)	3月	-9.1%	-15.1%	-4.5%
5/12	BSP O/N Borrowing Rate	-	4.0%	4.0%	4.0%
5/16	OFW送金額	3月	24.5億ドル	24.3億ドル	21.1億ドル
5/16	OFW送金 (前年比)	3月	1.1%	1.5%	9.1%
5/19	GDP YoY	1Q	6.9%	6.9%	6.5%
5/19	国際収支	4月	-	18.4億ドル	85.4億ドル
5/25	貿易収支	3月	-13.6億ドル	-17.5億ドル	-11.0億ドル

インドルピー相場

予想レンジ:

USD/INR 66.50 ~ 69.00
INR/JPY 1.59 ~ 1.67

アジア・オセアニア資金部 木原 達章

■ 先月の為替相場

5月のルピー相場は、当初、米国での利上げ観測の高まりから、対ドルでルピー安が進行するも、月末に掛けてセンチメントの改善から、買い戻しが入る展開。

月前半は、対ドルで66.50挟みのレンジ取引。
12日のインド市場引け後に、印4月消費者物価指数(CPI)と印3月鉱工業生産が発表されたが、CPIが市場予想を上回る一方、鉱工業生産は前年比で+0.1%と、市場予想の同+2.5%を大きく下回り、また前月の同+2.0%からも大減速。両指標ともにインド経済にネガティブな内容だったが、ルピーは小幅下落に留まった。

18日のNY時間に発表されたFOMC議事要旨を受けて、6月15日開催の次回FOMCでの利上げ観測が高まったことからドル高の展開となり、24日には、ルピーは対ドルで、3月上旬以来、約3か月ぶりの水準の67.80近辺まで下落。

4月から5月にかけて実施された州議会選挙の一斉開票が19日に行われたが、マーケットへの影響は限定的。

その後、海外市場のセンチメント改善からインド株にも買いが入り、ルピーは対ドルで67近辺まで買い戻された。

■ 今月の見通し

6月のルピー相場は、米国の利上げに対する思惑に振られる展開を予想。

6月15日(NY時間)に、FOMCが予定されており、利上げ観測が高まるようであれば、他の新興国通貨同様、ルピーに売りが入る展開となろう。

インド国内の材料としては、6月7日にインド準備銀行(RBI)の金融政策決定会合があるが、4月に利下げを実施して間もないことに加え、5月に発表された印4月CPIが強めの内容であったことから、政策変更はないものと予想。

原油価格が上昇傾向にあり、これは原油輸入国のインドでは貿易赤字拡大・インフレ上昇に繋がることから、ルピーの下押し要因。今後も原油価格動向には注意が必要。また、インドのインフレに影響の大きい「モンスーン(雨季)」の季節が近づいているが、今年の降雨量は例年を上回ると予想されている。モンスーン動向にも注意。

政権与党のインド人民党(BJP)は、国会上院で過半数を占めておらず、これがモディ首相が各種改革を進める上でのネックになっている。上院の議席の大半は州議会議員による間接選挙で選出されるため、州議会選挙の結果は、最終的には上院の議席に影響を与えるが、上院の改選タイミングとの兼ね合いもあり、当面、上院議席数への影響はなく、モディ改革が劇的に進展することもないだろう。引き続き、外部要因、特に米国の動向に左右される展開を予想。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

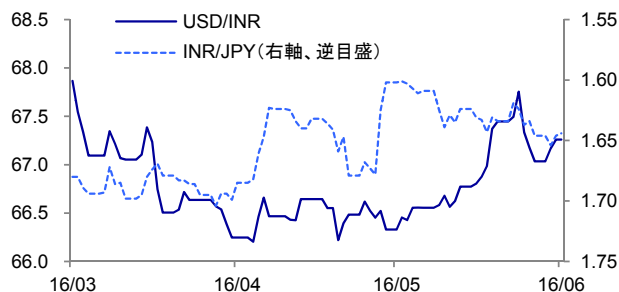
『当地の人たちの語学力』
インド人が多言語を操ることは、驚嘆に値する。そもそもインドにはほぼ州ごとに言語があり、例えばバンガロールの属するカルナタカ州と、チェンナイの属するタミルナドゥ州は、互いに接しているにも拘わらず、カンナダ語・タミル語という異なる言語を持つ。そしてこれらの言語は全く異なる文字や語彙を持つので、日本の「方言」の感覚よりも「外国語」に近い。

バンガロール支店のスタッフも、等しく複数のインドの言語を話す。例えば総務課長はバンガロールで生まれ育ったタミル族なので、タミル語とカンナダ語、そして英語を完璧に操る。家庭ではタミル語で主に話しているようだ。事務課のスタッフはカンナダ族だが実家がマハラシュトラ州との州境に近かったとのことで、マラティ語を操る。マハラシュトラ州の州都であるムンバイ支店と電話で話す際には便利だ。

ある営業マンはチェンナイの大学で学んだタミル族で、顧客の担当者がタミル族の場合はタミル語で話している。本人は英語の方が得意なのだが、より緊密なムードで話せるというメリットがあるようだ。政府関係者に何かを依頼したい場合は、別の営業担当者に「ちょっとカンナダ語で電話してみて」などと依頼している。言語が営業ツールとして使われているのは興味深い限りだ。(バンガロール支店・木原志乃)

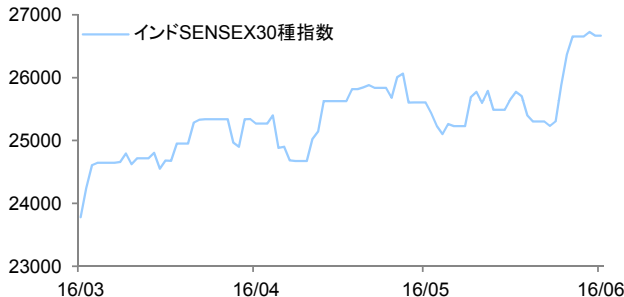
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

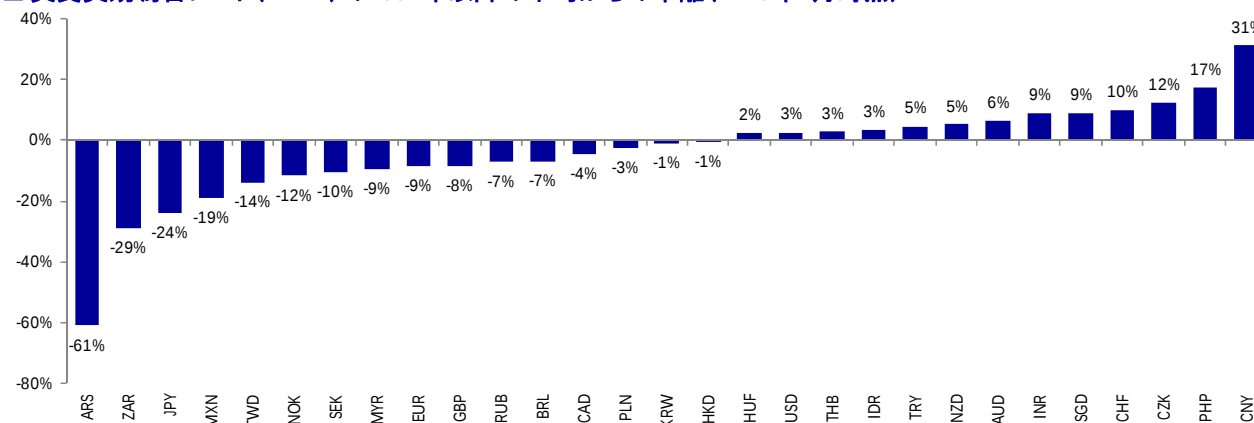
発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
5/2	日経インドPMI製造業	4月	-	50.5	52.4
5/4	日経インドPMIサービス業	4月	-	53.7	54.3
5/4	日経インドPMIコンポジット	4月	-	52.8	54.3
5/12	鉱工業生産(前年比)	3月	2.5%	0.1%	2.0%
5/12	消費者物価指数(前年比)	4月	5.05%	5.39%	4.83%
5/13	貿易収支	4月	-\$ 7.0B	-\$ 4.8B	-\$ 5.1B
5/13	輸入(前年比)	4月	-	-23.1%	-21.6%
5/13	輸出(前年比)	4月	-	-6.7%	-5.5%
5/16	卸売物価(前年比)	4月	-0.23%	0.34%	-0.85%

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2015年末	2016年5月末	騰落率	株式市場	2015年末	2016年5月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	17425.03	17787.2	2.1%	-
日本	USD/JPY	120.22	110.73	-7.9%	日経平均株価	19033.71	17234.98	-9.5%	-1.7%
ユーロ圏	EUR/USD	1.0862	1.1132	2.5%	ドイツDAX指数	10743.01	10262.74	-4.5%	-4.5%
英国	GBP/USD	1.4736	1.4483	-1.7%	ロンドンFTSE100指数	6242.32	6230.79	-0.2%	1.6%
豪州	AUD/USD	0.7286	0.7234	-0.7%	S&P/ASX200指数	5295.9	5378.56	1.6%	2.3%
カナダ	USD/CAD	1.3839	1.3093	-5.4%	S&Pトント総合指数	13009.95	14065.78	8.1%	14.3%
エマージングアジア									
中国	USD/CNY	6.4937	6.5854	1.4%	上海総合	3539.182	2916.616	-17.6%	-18.7%
香港	USD/HKD	7.7507	7.7712	0.3%	香港ハンセン	21914.4	20815.09	-5.0%	-5.3%
インド	USD/INR	66.1537	67.26	1.7%	インドSENSEX30種	26117.54	26667.96	2.1%	0.4%
インドネシア	USD/IDR	13788	13648	-1.0%	ジャカルタ総合	4593.008	4796.869	4.4%	5.5%
韓国	USD/KRW	1175.06	1191.93	1.4%	韓国総合株価	1961.31	1983.4	1.1%	-0.3%
マレーシア	USD/MYR	4.2943	4.1287	-3.9%	ブルサマレーシアKLCI	1692.51	1626	-3.9%	-0.1%
フィリピン	USD/PHP	46.905	46.777	-0.3%	フィリピン総合	6952.08	7401.6	6.5%	6.8%
シンガポール	USD/SGD	1.4185	1.3777	-2.9%	シンガポールST	2882.73	2791.06	-3.2%	-0.3%
台湾	USD/TWD	32.862	32.619	-0.7%	台湾加権	8338.06	8535.59	2.4%	3.1%
タイ	USD/THB	36.03	35.77	-0.7%	タイSET	1288.02	1424.28	10.6%	11.4%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2016年4月時点)



■ 実質GDP成長率

	2014Q3	2014Q4	2015Q1	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2014	2015
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	4.3	2.1	0.6	3.9	2.0	1.4	0.8	2.4	2.4
日本*	-2.7	2.1	5.4	-1.7	1.6	-1.7	1.7	0.0	0.6
ユーロ圏	0.8	1.0	1.3	1.6	1.6	1.6	1.5	0.9	1.6
英国	2.8	2.8	2.6	2.4	2.2	2.1	2.0	2.9	2.3
豪州	2.6	2.2	2.2	2.0	2.7	3.0		2.6	2.5
カナダ*	2.1	3.4	-1.0	-0.5	2.2	0.5	2.4	2.5	1.2
エマージングアジア									
中国	7.1	7.2	7.0	7.0	6.9	6.8	6.7	7.3	6.9
香港	3.2	2.5	2.4	3.1	2.3	1.9	0.8	2.7	2.4
インド	8.3	6.6	6.7	7.6	7.7	7.2	7.9	7.2	7.6
インドネシア	5.0	5.0	4.7	4.7	4.7	5.0	4.9	5.0	4.8
韓国	3.4	2.7	2.4	2.2	2.8	3.1	2.7	3.3	2.6
マレーシア	5.6	5.7	5.7	4.9	4.7	4.5	4.2	6.0	5.0
フィリピン	5.7	6.7	5.0	5.9	6.2	6.5	6.9	6.2	5.9
シンガポール	3.1	2.8	2.7	1.7	1.8	1.8	1.8	3.3	2.0
台湾	4.3	3.6	4.0	0.6	-0.8	-0.9	-0.7	3.9	0.7
タイ	0.9	2.1	3.0	2.7	2.9	2.8	3.2	0.9	2.8

(注) インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	15/10	15/11	15/12	16/01	16/02	16/03	16/04	2014	2015
	(%)							(%)	
先進国									
米国	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	5.0	5.0	6.2	5.3
日本	3.2	3.3	3.3	3.2	3.3	3.2	3.2	3.6	3.4
ユーロ圏	10.6	10.5	10.5	10.4	10.4	10.2	10.2	11.6	10.9
英国	5.2	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1		6.3	5.4
豪州	5.9	5.8	5.8	6.0	5.8	5.7	5.7	6.1	6.1
カナダ	7.0	7.1	7.1	7.2	7.3	7.1	7.1	6.9	6.9
エマージングアジア									
中国			4.1			4.0		4.1	4.1
香港	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.4	3.2	3.3
インドネシア								5.8	6.0
韓国	3.4	3.5	3.5	3.5	4.1	3.8	3.7	3.5	3.6
マレーシア	3.1	3.2	3.4	3.4	3.4	3.5		2.9	3.2
フィリピン	5.6			5.8				6.8	6.3
シンガポール			1.9			1.9		2.0	1.9
台湾	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	3.8
タイ	0.9	0.9	0.7	0.9	0.9	1.0	1.0	0.8	0.9

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	15/11	15/12	16/01	16/02	16/03	16/04	16/05	2014	2015
	(前年比%)							(前年比%)	
先進国									
米国	0.5	0.7	1.4	1.0	0.9	1.1		1.6	0.1
日本	0.3	0.2	0.0	0.3	-0.1	-0.3		2.7	0.8
ユーロ圏	0.1	0.2	0.3	-0.2	0.0	-0.2	-0.1	0.4	0.0
英国	0.1	0.2	0.3	0.3	0.5	0.3		1.5	0.0
豪州		1.7			1.3			2.5	1.5
カナダ	1.4	1.6	2.0	1.4	1.3	1.7		1.9	1.1
エマージングアジア									
中国	1.5	1.6	1.8	2.3	2.3	2.3		2.0	1.4
香港	2.3	2.4	2.5	3.0	2.9	2.7		4.4	3.0
インド	5.4	5.6	5.7	5.3	4.8	5.4		6.4	5.9
インドネシア	4.9	3.4	4.1	4.4	4.5	3.6		6.4	6.4
韓国	1.0	1.3	0.8	1.3	1.0	1.0	0.8	1.3	1.3
マレーシア	2.6	2.7	3.5	4.2	2.6	2.1		3.2	2.1
フィリピン	1.1	1.5	1.3	0.9	1.1	1.1		4.1	1.5
シンガポール	-0.8	-0.6	-0.6	-0.8	-1.0	-0.5		1.0	-0.5
台湾	0.5	0.1	0.8	2.4	2.0	1.9		1.2	-0.3
タイ	-1.0	-0.9	-0.5	-0.5	-0.5	0.1		1.9	-0.9

(注) 豪州は四半期データ。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2014Q3	2014Q4	2015Q1	2015Q2	2015Q3	2015Q4	2016Q1	2014	2015
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-2.1	-2.2	-2.3	-2.4	-2.6	-2.7		-2.3	-2.7
日本	-0.1	0.5	1.8	2.4	2.9	3.3	3.6	0.8	3.3
ユーロ圏	2.3	2.4	2.7	2.9	3.1	3.2		2.5	3.2
英国	-5.0	-5.1	-5.3	-5.3	-5.0	-5.2		-5.1	-5.2
豪州	-3.3	-2.9	-3.5	-5.3	-4.8	-5.5	-5.1	-3.0	-4.8
カナダ	-2.3	-2.3	-2.6	-2.8	-3.1	-3.2	-3.1	-2.3	-3.2
エマージングアジア									
中国	1.8	2.7	3.3	3.3	3.1	3.1	2.7	2.7	3.1
香港	1.5	1.3	1.3	2.6	3.1	3.1		1.3	3.1
インド	-1.2	-1.4	-1.3	-1.3	-1.2	-1.1		-1.4	-1.1
インドネシア	-3.0	-3.1	-3.0	-2.5	-2.2	-2.1	-2.1	-3.1	-2.1
韓国	6.1	6.0	6.7	7.0	7.7	7.7		6.0	7.7
マレーシア	5.3	4.4	3.5	2.7	2.5	2.9	2.4	4.4	2.9
フィリピン	3.6	3.8	4.2	3.8	2.9	2.9		3.8	2.9
シンガポール	18.5	17.4	19.3	19.5	19.3	19.8	18.9	17.5	19.8
台湾	11.9	12.2	13.3	13.2	14.2	14.5	14.4	11.9	14.5
タイ	2.2	3.8	4.5	6.0	7.9	8.1	10.2	3.8	8.1

(注) インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

		現在 (%)	政策転換期		最近の政策変更		直近の政策動向	
			日付	水準 (%)	日付	(単位:bp)	日付	決定事項
先進国								
米国	FFレート誘導目標	0.25 - 0.50	引き締め: 2015/12/17	0.25 - 0.50	2015/12/17	25	2016/4/27	現状維持
日本	無担保コール翌日物金利	0.10	緩和: 2008/10/30	0.50	2010/10/5	0-10	2016/4/28	現状維持
ユーロ圏	主要リファイナンスオペ金利	0.00	緩和: 2011/11/3	1.50	2016/3/10	-5	2016/4/21	現状維持
英国	バンク・レート	0.50	緩和: 2007/12/6	5.75	2009/3/5	-50	2016/5/12	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	1.75	緩和: 2011/11/1	4.75	2015/5/3	-25	2016/5/3	-25bp
カナダ	翌日物金利	0.50	緩和: 2015/7/15	1.00	2015/1/22	-25	2016/5/25	現状維持
エマージングアジア								
中国	1年物貸出基準金利	4.35	緩和: 2012/6/8	6.31	2015/8/25	-25	2015/10/23	-25bp
香港	基準貸出金利	0.50	緩和: 2007/9/19	6.75	2008/12/17	-100	2011/12/14	現状維持
インド	翌日物レポ金利	6.50	緩和: 2015/1/15	8.00	2016/4/5	-25	2016/4/5	-25bp
インドネシア	翌日物金利	6.75	緩和: 2015/2/17	7.75	2016/3/17	-25	2016/5/19	現状維持
韓国	7日物レポ金利	1.50	緩和: 2012/7/12	3.00	2015/6/11	-25	2016/5/13	現状維持
マレーシア	翌日物金利	3.25	引き締め: 2010/3/4	2.00	2014/7/10	+25	2016/5/19	現状維持
フィリピン	翌日物金利	3.00	緩和: 2016/5/16	3.00	2016/5/16	-100	2016/5/16	-100bp
タイ	翌日物レポ金利	1.50	緩和: 2011/11/30	3.50	2015/3/11	-25	2016/5/11	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	6.50	緩和: 2012/3/12	15.00	2014/3/17	-50	2014/12/23	現状維持

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行